週刊 YEARBOOK

1943 昭和18年

日録20世紀

7|15
平成9年7月15日発行
(毎週1回発行)第1巻第21号
¥560
講談社

「学徒出陣」の悲劇

古川緑波ら、戦時下の"グルメ"追求
上野動物園からゾウや猛獣が消えた日
往復5万4000キロ!「伊8号」ドイツから帰投

神宮外苑競技場で77校が雨中の行進

「学徒出陣」

入隊者数、戦没者数、ともに不明！

日本軍の旗色が悪くなった昭和18年、それまで徴兵が猶予されていた20歳以上の学生が、いよいよ軍隊への入隊を義務づけられた。〝人生25年〞——あきらめと決意を胸に学徒兵たちは、苛烈な戦地へぞくぞくと駆り出されていった。

▼入隊して陸軍の特別操縦見習士官になった学徒兵たち。この中には、特攻出撃で戦死した人もいる。 毎日新聞社

「もとより生還を期せず」歓声と涙声の神宮の杜

「卒業後は軍役に服する覚悟ができていた。それが、学園生活を残して入隊しなければならない気持ちは、たとえれば朝まで眠れると思っていたのが午前二時に叩き起こされた感じかなあ。『早すぎる。これじゃあ不完全燃焼だよ』ってね」

慶応大学法学部の学生だった白水英一郎氏（戦後は産経新聞記者、現・七四歳）は、当時の無念さを、そう回顧する——。

昭和一八年一〇月二一日午前八時、東京・明治神宮外苑陸上競技場（現・国立競技場）で、文部省主催の「出陣学徒壮行会」が開かれた。いっこうにやむ気配のない夜来の雨の中、東京とその近県七七校の学生が制服制帽にゲートルを巻き、剣つき銃をかついで校旗を先頭に行進していく。

ザクッ、ザクッ、ザクッ……。泥を跳ね上げながら歩く重苦しい靴音が、見送りの家族や友人など六万五〇〇〇人の歓声と拍手、涙声に重なり合う。東条英機首相（五八）、岡部長景文相らの激励を受け、出陣学徒代表、東京帝大の江橋慎四郎（二三、戦後は東京大学名誉教授）の答辞が述べられる。

「生等今や見敵必殺の銃剣を提げ積年忍苦の精神研鑽を挙げて……生等もとより生還を期せず」

やがて観覧席から各校の校歌が沸き上がった。その歌声はいつしか、「海ゆかば」「紅の血は燃ゆる」の大合唱へ変わり、神宮の杜にこだました。「朝日新聞」は「幾十、幾百、幾千の足が進んでくる。この足やがてジャングルを踏み、この脛やがて敵前渡河の水を走るのだ」と、同日付の夕刊で報じている。

学徒出陣を決定したのは、壮行会が行われるわずか一ヵ月前の九月二一日。東条内閣定例閣議でのことだった。翌日には、東条首相が「大学・高専の学生は満二六歳まで徴兵を猶予するという規定を廃止する」と発表。もちろん、議会の承認も学校との折衝もなかった（理工系学生は一二月一三日の陸軍省令により延期）。

東条内閣が学徒出陣をこうも急に決定

▶明治神宮外苑での「出陣学徒壮行会」の前日、10月20日に戸塚球場で行われた早稲田大学の壮行会。 毎日新聞社

◎表紙　東条英機。昭和16年10月、近衛内閣総辞職の後を受けて組閣し、対米英戦争の道を開いた。 横堀洋一提供

神宮外苑競技場で77校が雨中の行進

「学徒出陣」

入隊者数、戦没者数、ともに不明!

▲雨中の「出陣学徒壮行会」。制服制帽にゲートル、剣つき銃のいでたちで、東京とその近県77校から明治神宮外苑陸上競技場に参集した。学徒たちは、この後、市中を行進、宮城前広場で解散した。 毎日新聞社

したのは、拡大する戦線の中、日本軍の劣勢が抜きさしならない状態になっていたからにほかならない。同盟国ドイツがスターリングラードでの大敗を契機にソ連領各地から撤退したこの年二月には、日本もまたガダルカナル島からの撤退を余儀なくされていた。さらに、五月にはアッツ島の日本軍が玉砕。下級将校や指揮官の消耗や不足は日に日に深刻になっていた。日本の将来を担う"知的エリート"の大学生(当時の大学・高専の進学率はわずか三%)を動員するまでに、日本軍は追いこまれていたのである。

「学生の多くは日本が劣勢にあることを知っていたし、学業をまっとうすることすらできない現実に愕然としながらも、『負ければ亡国、鬼畜米英の植民地になる。そんな悲惨な事態を俺たちがくいとめなきゃ』という気持ちだった」(白水氏)

"国のため、家族のため……"生への未練と死への覚悟が錯綜する中でひそかな決意をもって約一三万人(人数は軍事機密として未公表)の"学徒兵"が入隊していったのである。

思い悩みながらも特攻の一翼を担う

しかし、学徒兵の想いと実際の軍隊生活の間には、あまりにも大きな"落差"があった。そのほとんどが陸軍幹部候補生、海軍予備学生としてスタートした学徒出陣組にとって、第一線に出陣するまでに受ける"教育"は、およそ彼らの想像を絶するものだったのである。

「土浦海軍航空隊の門をくぐってからは、顔の形が変わるほど撲られる猛特訓の日日がつづいた。(中略)一月一日の朝は、金子という少尉に二十ほども顔中を撲られ、口の中がズタズタに切れ、楽しみにしていた雑煮が食べられず、血を呑んですごした。(中略)頭から投げ飛ばされた瞬間、床板がぬけて重体におちいり、そのまま病院に運ばれ、ついに帰らなかった友もあった」(東京帝国大学文学部・色川大吉/『学徒出陣の記録』より)

"兵隊と毛布は叩けば叩くほどよくなる"とばかりに、鉄拳制裁が日常化した軍隊秩序。ましてや、持ちこんだ愛読書や女性からの手紙が見つかろうものなら、不満と妬みが鬱積した古年兵の袋叩きにあうのが関の山だった。自由なアカデミズムにあこがれ、心の底では軍国主義に同調しきれない学徒兵の中には、こうした軍隊生活になじめないものが大勢いた。

昭和一九年以降、戦局は一層悪化し、日本軍は破滅への道をひた走る。七月のインパール作戦の中止とサイパン島玉砕、翌八月のグアム島陥落……。一〇月になって、最大規模の死闘と言われたレイテ沖海戦にも敗れた日本軍は、その頃から、"捨て身の攻撃"に大きく傾斜し始める。学徒兵も特別攻撃隊(特攻)の一翼を担っていた。

「手渡された志望書に所属と氏名を記入しただけで、熱望、望、不望と三ツ書かれた何れにも○を記さず、まんじりともせず蒸し暑い一夜を過ごした。いずれ散る花なら望まれるところでいさぎよく散ろうと決心し、熱望に思いきり大きな○印を記した」(慶応大学経済学部・吉沢幹夫/『わが海軍』より)

多くの学徒兵が上官に「貴様の死生観を問う」と詰問され、志願を強制されたが、"体当たりさせてほしい"と懇願した隊員も少なくなかった。ちなみに、いまだ正確な戦没者数は判明していない。

「自分も特攻の訓練中に終戦日を迎えた"生き残り組"。だからこそ、先に逝った仲間たちが"犬死に"だったなんて言い方は絶対にしたくない。前途有望な学生の死という犠牲まで払ったからこそ、ぼくらは今の平和を手に入れたんです。残されたものにできるのは——戦争という悲劇を二度と起こさないこと——それしかないでしょう」(白水氏)

▲学徒兵の多くは陸軍の幹部候補生か海軍の予備学生の進路を選んだ。写真は予備学生の身体検査風景。 毎日新聞社

学徒兵たちの手記

●【戦争は倫理の限界を教えてくれる】

「戦争の体験は疲れ飢えたひとの倫理の限界を教えてくれる。地位、教養、宗教、職業の有無如何を問わず、余程のことがないかぎり倫理の限界状況というものがある。(中略)人間は考える葦である。しかし、ルソンでの体験は人間が同時に弱い生物であることを身を以て教えてくれた」(阿利莫二・東京帝国大学法学部、戦後は法政大学総長。『前橋陸軍予備士官学校戦記』)

▲ある学徒兵の日記。戦友の死に直面し、わが身の死を思う。 毎日新聞社

●【勝敗は火を見るより明らか】

「私は明確にいえば自由主義に憧れていました。日本が真に永久に続くためには自由主義が必要であると思ったからです。(中略)戦争において勝敗をえんとすればその国の主義を見れば事前において判明すると思います。人間の本性に合った自然な主義を持った国の勝戦は火を見るより明らかであると思います」(上原良司・慶応大学経済学部、沖縄で戦死、22歳。『きけわだつみのこえ』)

●【人間性を奪う軍隊】

「軍隊、それは予想していた何層倍もテリブルな所です。一ケ年の軍隊生活は、遂に全ての人から人間性を奪ってしまっています。二年兵はただ、我々初年兵を奴レイのごとくに、否機械のごとくに扱い、苦しめ、いじめるより他に何の仕事もないのです」(福中五郎・早稲田大学政経学部、ブーゲンビル島で戦死、28歳。『きけわだつみのこえ』)

●【お母さんに祈ってつっこみます】

「お母さん、とうとう悲しい便りを出さなければならないときがきました。(中略)晴れて特攻隊員として選ばれて出陣するのは嬉しいですが、お母さんのことを思うと泣けてきます。(中略)でも私は、技倆抜群として選ばれるのですから、喜んで下さい。私は、お母さんに祈ってつっこみます」(林市造・京都大学経済学部、沖縄特攻戦で戦死、23歳。『あゝ同期の桜』)

●【帝国海軍のためには死にえない】

「帝国海軍のためには少なくとも戦争しない。(中略)私が生きそして死ぬとすれば、それは祖国のためであり更に極言するならば私自身のプライドのためであると」(林憲正・慶応大学経済学部、本州東方海上にて戦死、25歳。『きけわだつみのこえ』)

「まるで昼は食ひものがない」と、古川緑波は日記に書いた！
「代用食」「決戦食」に泣いた〝悲食〟の時代

▲昭和16年のそば屋。16年の4月1日から、六大都市では外食券の交付を受け、外で食事ができる外食券食堂、さらに19年になると外食券がなくても利用できる雑炊食堂が登場する。　門奈次郎／JPS

戦争の記憶は、一面、ひもじさの記憶でもあった。配給される米は次第に減り、さつま芋、小麦粉などの代用食にとって代わられた。だが、そんな〝悲食〟の時代でも、人は「食べる知恵」を編み出し、少しでも人間らしい食事をと、悪戦苦闘していたのである。

緑波・夢声が堪能した小林邸でのフルコース

二月にガダルカナル島の日本軍が撤退を開始、戦局が急激に悪化していた頃のこの年五月一三日、兵庫県芦屋市の高級住宅地にある小林一三（阪急電鉄創始者＝七〇）邸に、当代の人気者二人が招かれていた。喜劇役者・古川緑波（三九）と漫談家の徳川夢声（四九）である。

緑波の日記には「小林一三氏邸へ。先ず食堂へ。ここのコックは一流なので、久々でほんものの西洋料理が食べられた。コンソメ、鯛の蒸焼、卵ソース、じゃがいもマッシュ添、牛肉のガランディン、ポテト、野菜、チョコレートのかかったカステラ、うまい〳〵でいちいちお代りしてうん苦しいという程。（中略）コーヒー、ビスケット等出て、たんのう」（『古川ロッパ昭和日記　戦中篇』）と記されている。

当時すでに、食糧事情は逼迫し、緑波自身「こりゃあ、とても深刻になったぞ、まるで昼は食ひものがない。あるものはイルカのステーキ、イルカの煮物などばかり。うーん、こいつは参ったな」（同一八年五月五日）と書くほどだった。

一方の夢声は同じ日の情景を次のように書く。「正式コースの西洋料理が出た。やはり阪急デパートあたりの冷凍肉など流れてくるのか、当時としてはアッというほどのメニューだった。『こんなもので好ければ、いつでもいらっしゃい』と云われて、いささか憂鬱になった。食料不足も一向に驚かない生活があることを、具体的に知らされたわけだ」（『夢声戦争日記』）

緑波は当時、「ロッパ、エノケン」と言われ、日本の喜劇界を二分する大看板であるとともに、指おりの食通、今で言うグルメとしても知られていた。

「僕は（中略）美味いものを毎日、思うさま食えるような身分になりたい。（中略）ところが（戦争が始まり）食うもの

庶民の知恵〝代用食〟

食糧不足が深刻化する中で、庶民はさまざまな食べる知恵を編み出した。それらは「代用食」と呼ばれたが、その代表が**すいとん**だ。基本的には小麦粉をこねてだんご状にして汁で煮たもの。味つけは味噌でも醤油でもよいが、塩だけというケースも多かった。具はなんでもあり合わせのものを入れた。「雑草へ代用食の眼が光り」（高木雪峰）という川柳にあるように、大根や人参の葉を使うのは当然、にわとりの餌にまぜていたはこべや名もない雑草も食用とされた。

食糧の配給制が次々実施される中で、調味料もその例外ではなかった。昭和17年1月、塩が一人当たり月200グラムの配給制となり、次いで2月には味噌、醤油がやはり配給制となった。海に近かった人の間で作られたのが塩の代わりに**海水を使う粥**だった。少しでも満腹感を得ようと、水分をふやしたため、塩をかなり必要としたところから考え出されたものだ。十分に大きくならなかった小粒の不良米（コゴメと呼ばれていた）も、貴重な食糧だった。当時どこの家庭にもあった石臼で粉にひき、水でこねて火鉢の灰の中に入れて焼いたものが**ココメだんご**。地方によっては**アンブ**とも言った。アツアツになったところを取り出し、灰をはたき落としながら醤油で食べれば贅沢。普通は手のひらになすりつけた塩で食べていた。

▲芋づる、かぼちゃづる、もみ殻なども粉にして食糧とした。

▼昭和19年5月7日、千葉県流山の帝国清酒慰問の緑波（中央）。汁粉と甘酒などが出てご機嫌だった。

古川清提供

▲昭和19年8月、東京・田園調布で静岡県畑毛温泉に学童疎開する子どもたちを励ます会が開かれた。心づくしのご馳走が並ぶ。 影山光洋

が世の中から消えてしまった」と嘆くのである。実際丹念に書き続けられていた緑波の日記には、ほぼ毎日、食事の内容が記録されている。ところが、開戦から日を追うにつれ、ぼやきが強くなってくるのである。

巷には「贅沢は敵だ」「足らぬ足らぬは工夫が足らぬ」などのスローガンが掲げられた。そんな「工夫」の一例が〝野草復古主義〟である。「水仙の真っ白な花の中にポカッと黄色いのがあって、ゆで卵を半分に切ったようなもの、あれをすまし汁に入れて食べるとおいしい。水仙の葉をとんとんと細かく切ってふりねぎにすれば食べられる。また水仙の根はらっきょうみたいだから、つけあわせにすればうまい。（中略）すべて（の意識が食うというところまでゆかなければならん」（川島四郎「婦人公論」一八年九月号）

この年の九月一日からは、都市近辺の農産物の買い出し量制限が始まった。茨城、群馬をのぞく関東五県で一人当たりの制限が、二貫目（七・五キロ）までとなったのだ。都市住民は近郊農家に出かけ、金品と引き替えに食糧を得たのだが、食糧不足が長引くにつれ、農家の売りしぶりも目立つようになっていった。

しかも値段はべらぼうだった。たとえば公定価格では一升四〇銭の大豆が、闇値では三円、清酒にいたっては、公定価格一升三円五〇銭に対し、この頃の闇値で一五円、翌一九年には一二〇円、さらに二〇年には、二〇〇円を記録する。

「決戦食」という言葉も発明された。七月七日付「朝日新聞」は「決戦食として藷めしが主食になる」として次のように書く。「米八合、甘藷八〇匁（三〇〇グラム）を混合の基本にすると、腹加減にはいささかの心配もない」。

食糧確保に四時間半行列 一方では闇物資の恩恵も

すでに東京など六大都市では、昭和一六年四月一日から、米が配給制となり、大人一人一日当たり二・三合（三三〇グラム）とされた。配給制度はこの年のうちに全国に広がる。しかも、実態はさつま芋、じゃが芋、芋粉、大豆、豆かす、とうもろこしなどが七〇パーセント以上を占めていた。それも、次第に遅配、欠配が常識となってゆく。

町にはいくつもの行列ができた。食糧も衣類も、日用品も長い行列のすえでなければ手に入らなかった。当時の調査によれば、五人家族で一日に四時間半も行列していたという（『東京都の百年』）。

一方、「世の中は星（陸軍）に碇（海軍）に闇（闇商人）に顔（各層のボス）、馬鹿者のみが行列に立つ」という狂歌に見られるように、高級軍人などの間では、庶民の暮らしとは対照的に、高級な食品や酒がひそかに出まわっていた。

当時、緑波の自宅に時折「本日は晴れ」という電話がかかっていた。「晴れ」とは闇物資が手に入ったという暗号だった。電話の盗聴を恐れて考え出されたものである。だが、次第に取締りが厳しくなり、こうした闇の料理屋も一軒、また一軒と姿を消し、一九年後半になると皆無に近くなる。まさに〝悲食〟の時代が訪れたのだった。

女たちの肖像

日系二世・戸栗郁子から「東京ローズ」へ戦争に翻弄された人生

稲葉真弓

戦争はその人の意思にかかわらず、大きく人生を狂わせることがある。この年の四月一日、日本放送協会海外局（ラジオ東京）で対米宣伝放送「ゼロ・アワー」が始まったが、一一月からアナウンサーとして採用された戸栗郁子（本名アイバ・トグリ・ダキノ＝二七）もその一人だった。

「ゼロ・アワー」は、太平洋戦線にいる米軍兵士たちの戦意を削ぐため始まった英語放送の一五分番組で、複数の女性アナウンサーがジャズやダンス音楽を流しながら、「ハンバーグが焼けたわよ。戦争なんかやめてご馳走を食べましょう」「船はとっくに沈んだわよ。早く国にお帰り」と呼びかけるというものだった。この声だけの女性たちを米軍兵士たちは、いつしか「東京ローズ」と呼ぶようになったのである。

日系二世の戸栗は、カリフォルニア大学大学院で医学を学んでいたが、昭和一六年七月、病気の叔母を見舞うために来日中、戦争が始まって帰国できなくなった。やむなく同盟通信につとめた後、日本放送協会海外局に入り、速記タイピストをしていたが、独特のかすれ声が気にいられ、アナウンサーに抜擢された。

二〇年、彼女は同盟通信で知り合ったポルトガル人フィリップ・ダキノと結婚。しかし敗戦後、対米宣伝放送が問題になって占領軍に逮捕され、いったんは証拠不十分で釈放されたものの、二四年、国家反逆罪の疑いで再逮捕された。故国であるアメリカに「売国奴」として送還された彼女は無罪を主張したが、判決は「禁固一〇年、罰金一万ドル、市民権剝奪」と厳しいものだった。「東京ローズ」は架空の女性をさす言葉だったのに、彼女だけが告訴されたのはマスコミにそそのかされて「東京ローズは私です」ともらしたからだという。一方でこの判決は、日本側に協力した日系二世への「みせしめ」とも言われた。

彼女は、バージニア州の拘置所で六年余をすごした後仮釈放されたが、戦後三二年を経た昭和五二年、ようやく特赦の身となった。後に彼女は、シカゴで日本商品を扱う店を営み成功したが、いわれなき〝魔女裁判〟にかけられた心の傷は重く、『東京ローズ』を書いたノンフィクション作家ドウス昌代氏は「日米両国のはざまで、スケープゴートにされた人生」と語った。

▶「東京ローズ」の愛称で呼ばれた戸栗郁子。

勝者・敗者

早稲田一〇対一で大勝！戦地に赴く前にと戦時下〝最後の早慶戦〟

阿部珠樹

野球の早慶戦は、ただの対校試合にとどまらず、日本を代表するスポーツイベントであり、大相撲、中等学校野球と並んで戦前では最も人気のある試合であった。

しかし、この年、一〇月一六日、早稲田の戸塚球場で行われた早慶戦は、長い歴史の中でもきわめて特殊な、それだけに印象深い試合と言える。この試合はリーグ戦の試合ではなかった。「出陣学徒壮行試合」という名称のもとに行われた、一試合だけのメモリアルゲームだったのだ。

この年、それまで入隊、出陣を免除されていた法文系学生の徴兵猶予が解除され、学生たちもいやおうなしに戦地に送りこまれる体制ができあがった。野球に関しても、四月二八日、東京大学野球連盟が解散し、リーグ戦は行われなくなっていた。

徴兵猶予解除を受けて、リーグ戦に出場した選手の中からも、さっそく召集される選手が現れた。彼らが戦地に赴く前に、もう一度、好きな野球をさせてやりたい。早慶両校のOBをはじめ、野球関係者の中から、そんな声が沸き起こった。しかし、非常時に大がかりな野球の試合を行うことは制約が多い。それでも関係者は文部省や軍部をなんとか説き伏せ、壮行試合という形で、最後の早慶戦開催にこぎつけたのだ。

試合は出陣準備のため帰郷していたものが少なくなかった慶応に対し、選手が多く残っていた早稲田の優位で進んだ。慶応にとってはエースの大島信雄（二二）が肩を傷めて登板できなかったのも大きかった。早稲田は活発に打ち、エース岡本忠之（二二）も好投して一〇対一で慶応を破った。

試合が終わっても、選手も観客も、球場を立ち去るものは一人もいなかった。「海ゆかば」が流れる中、慶応・阪井盛一（二四）、早稲田・笠原和夫（二三）の両キャプテンが歩み寄り、肩をたたき合った。当時の新聞によれば、戦場での健闘を誓って、「互いにやりましょう」と語り合ったというが、真実のところはさだかではない。なお、この試合に出場した選手のうち早稲田の二人が戦死している。

朝日新聞社

▲好天の10月16日午前11時55分に早慶戦は開始された。

ニュース・ファイル

1943

フォト＋日録で再現する365日

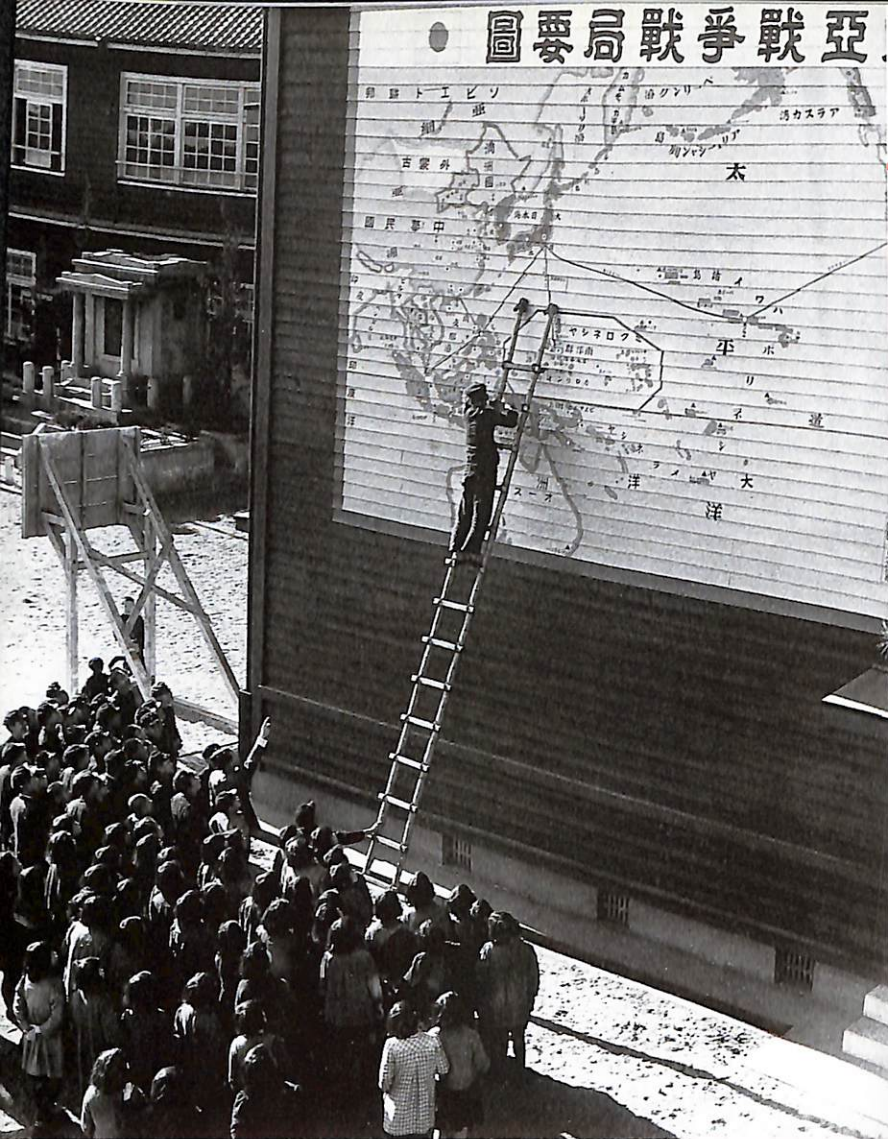
ソロモン方面で連合軍の反攻が本格化した。ガダルカナル島撤退、山本五十六戦死。国内では次第に食糧事情が悪化し、労働力不足による勤労動員は青少年にまでおよんだ。「撃ちてし止まむ」の標語のもと、全国民に一層の奮起と「決戦」への覚悟が求められた。

◀「撃ちてし止まむ」(2月23日) 陸軍記念日に向けて陸軍省が掲げた決戦標語。この日配布された5万枚のポスターに記された。写真は3月10日の記念日のために、朝日新聞社が東京・有楽町の日劇に飾ったもの。

朝日新聞社

日録 20世紀1943

1月

朝日新聞社

▲「通天閣」炎上(1月16日) 映画館・大橋座の出火で類焼、鉄骨が焼けただれたために解体された。高さ75メートルの大阪名物も、約300トンの軍需用資材に。

河北新報社

▲金属回収、硬貨にも(1月) 飛行機・弾丸などの生産に欠かせない素材を確保するため、銅貨やニッケル貨のアルミ貨や紙幣への交換が前年末から始められた。やがてそのアルミ貨も回収されることになる。

キーストン

◀スターリングラードの独軍降伏(1月31日) ソ連軍に逆包囲され爆薬・食糧が尽き、すでに死者十数万。指揮官パウルス(写真)はヒトラーの命令を無視して決断した。

内海薫

▲「大東亜戦争戦局要図」(1月) 四日市市の国民学校校舎の壁。日本は前年5月にコレヒドール島を占領、東南アジア全域を制覇した。この年に入ってからも次々に占領地を拡大、領土を示す日の丸がふえていった。

▶木造船増産(1月) 占領地の増大と輸送時の損害などにより、船舶不足は深刻だった。写真はシンガポール港での補助機関つき帆船の建造。2月6日には大政翼賛会などが中心となって全国的に「造船供木」を展開した。

毎日新聞社

東京ドーム提供

▲木下サーカス大人気(1月1日) 東京の後楽園で40日間の正月興行。4000人収容の大天幕を張った。しかし9月には猛獣使いの都市興行が禁止、営業不如意となった。

昭和18年1月

1(金) ●「大阪毎日新聞」と「東京日日新聞」が「毎日新聞」と名称統一。
●中野正剛「戦時宰相論」掲載の「朝日新聞」朝刊、東条首相を批判したとして発禁に。

2(土) ●ニューギニア島ブナの日本軍守備隊全滅。
●東京─下関間を九時間で走る「弾丸列車」のコース決定と新聞に。

3(日) ●能楽五流、出演料あわず囃方抜きで正月公演。

4(月) ●鈴木梅太郎が代用食「芋パン」完成と新聞に。

5(火) ●東京浴場組合、薮入りの朝風呂実施を申請。

6(水) ●箱根往復関東学生継走大会(駅伝)で日大優勝。

7(木) ●配給米が五分づき米に。
●日本放送協会、「前線へ送る夕」を放送開始。

8(金) ●日比谷公園で「軍艦行進曲記念碑」の地鎮祭。

9(土) ●汪兆銘の「南京政府」、米英に宣戦布告。
●湘南方面の混雑緩和のため、週末の乗車券発売を東京・新橋・川崎・横浜の四駅に限定。

10(日) ●有馬温泉で火災。旅館など四二戸を全焼。

11(月) ●三井・第一両銀行が合併調印(4月1日、帝国銀行として開業)。

12(火) ●海務院、量産をはかり「木造船標準型」決定。

13(水) ●情報局、米英音楽約一〇〇〇曲の演奏を禁止。

14(木) ●米英首脳、カサブランカで会談。日・独・伊三国の無条件降伏要求などで合意。

15(金) ●文部省、学制改革発表。英語の追放、百余の師範学校を五二に統合など。

16(土) ●大阪・新世界の「通天閣」炎上(屑鉄として供出が決まり2月13日献納式)。

17(日) ●タバコ、平均六割値上げ。軍隊用「誉」据え置き。

18(月) ●埼玉県の女子師範など、もんぺを制服に採用。

19(火) ●衣料切符の基準点数が平均二五%の引き上げ。

20(水) ●静岡で遺物が出土(登呂遺跡。7月調査開始)。

21(木) ●中・高・大学で修業年限を一年ずつ短縮。

22(金) ●文部省が徴用逃れの各種学校を調査と新聞に。

23(土) ●大日本書道報国会(会長・荒木貞夫)創立。

24(日) ●農林省、次年度の国有林伐採を倍増と決定。

25(月) ●逓信省、新宿歓楽街の電気使用状況を臨検。

26(火) ●広島県、空襲警報と類似する音響を禁止。

27(水) ●鳥取県が職員のパーマと口紅を禁止と新聞に。

28(木) ●日本医師会・日本歯科医師会発足。

29(金) ●築地市場に寒ブリが大量入荷し、東京市民一五〜一六人に一きれずつ割当てられる。

30(土) ●東京・目黒に結婚会館「守屋記念館」開館。

31(日) ●スターリングラード攻防戦で独、ソ連に降伏。

◀**「食品むだなし運動」(2月15日)** 東京市が食品の完全利用と厨芥(台所や調理場から出るごみ)の減量の徹底をはかるため、28日までキャンペーンを展開。厨芥車で清掃出張所員が巡回し、主婦らを指導した。

▲**シンガポールの寿司屋(2月)** 日本が占領してから1年、繁華街に日本人客をめあてにした店がふえた。写真は目抜き通りのミッドルロードに出現した、軒をヤシの葉で葺いた寿司屋。連日、日本兵で混雑した。

▼**皆既日食観測(2月5日)** 中央気象台観測班が、釧路測候所で午前7時52分53秒から1分53秒間、月に完全に隠れた太陽をとらえ、コロナの撮影などに成功した。写真は観測の様子。

▲**「敵性音楽」追放(2月)** 1月に情報局などが「ダイナ」など米英音楽約1000曲の禁止リストを発表。「写真週報」2月3日号はイラストつきで掲載した。

◀**中学生が1日航空兵(2月12日)** 毎日新聞社主催で東日本18道府県の青少年代表ら180人が、この日は立川の東京陸軍航空学校(写真)、翌13日には所沢陸軍航空整備学校を訪問、訓練を体験した。

▲**日本軍、ガダルカナル島撤退(2月)** 1、4、7日の3次に分けて1万652人が脱出。投入人員の約34パーセントだった。写真は脱出作戦中の日本軍との戦闘で負傷した戦友を運ぶ米兵。

昭和18年2月

1(月) ●日本軍、ガダルカナル島から撤退開始(7日までに一万六五二人が撤退完了)。
●アメリカ、日系二世による部隊を編成と発表。

2(火) ●間接税増税の具体案発表。二五円以上の洋服仕立てに課税、カフェーやバーには六割課税。

3(水) ●東京の映画館・劇場が月二回の節電休館。
●東京市、児童に弁当用塩ザケの特配開始。

4(木) ●警視庁、業務用米の配給削減を通達。

5(金) ●高等学校入学願書締め切り。理系が激増。

6(土) ●大政翼賛会など、軍需造船供木運動要綱決定。日光杉並木など、名勝や社寺林も対象に。

7(日) ●「サンデー毎日」が「週刊毎日」に改題。

8(月) ●正午、全国一斉に空襲警報の試験を実施。

9(火) ●大本営、ガダルカナル撤退を「転進」と発表。

10(水) ●厚相、前年度人口は出産増で百余万増と報告。

11(木) ●理化学研究所、二〇〇トンの大型サイクロトロンの組み立てを完了。

12(金) ●シンガポールで「昭南神社」が竣工。

13(土) ●東京の国技館で相撲協会勤労報国隊の結成式。

14(日) ●英インド軍、北部ビルマに進入し攻撃開始。

15(月) ●国鉄、物資輸送力増強のため旅客列車を大幅削減。廃止総キロ数は二万一二一一キロ。

16(火) ●滋賀県、教科書公有制を決定。生徒には貸与。

17(水) ●岸信介商相、衆院で、和服の長い袂やポケットのふたなど不要なものの製造を制限と答弁。

18(木) ●逓信相、木造船造船所を二〇カ所建設と表明。

19(金) ●米艦隊、アッツ島を砲撃。

20(土) ●甲府市で、国民学校では卒業式の「蛍の光」禁止と決定。「敵性一掃」のため。

21(日) ●マニラで「ハワイ・マレー沖海戦」が人気。封切後一〇日間で観客五万人に。

22(月) ●日本基督教団が独自の賛美歌を作成と新聞に。

23(火) ●陸軍省、「撃ちてし止まむ」の標語ポスター五万枚を配布。

24(水) ●厚相、人口増をめざし結婚平均年齢(女子二四歳)の三歳引き下げを奨励と答弁。
●インド政庁、ガンジー釈放要求を拒絶。反英闘争全土に拡大。

25(木) ●神奈川県浴場組合、入浴は三〇分以内、洗髪・髭剃り禁止、お湯は七杯までと決定。

26(金) ●東京の武蔵野バスで女性運転手活躍と新聞に。

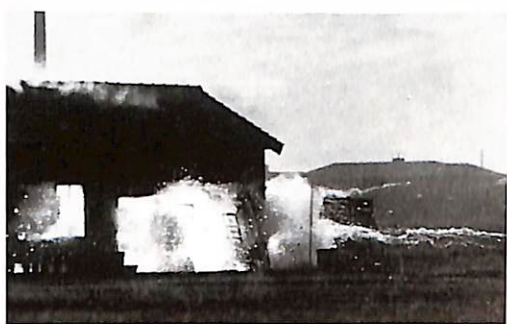
27(土) ●大東亜省、釜山—南京—バンコク—シンガポールの大東亜鉄道建設を計画し折衝中と発表。

28(日) ●板橋区に市民が開墾する戦時錬成農場開設。

毎日新聞社

▶**「敵旗」を踏みつけに(3月10日)** 陸軍記念日のこの日、宣伝奉公小隊の若手図案家たちが東京・銀座4丁目三越百貨店前に米旗、服部時計店前に英旗を描き、通行人の敵がい心をあおった。

◀**未婚の女性求む(3月)** 労働力のひっ迫で貴重な対象となった。写真は香川県琴平町の参宮電車の保線作業。6月には工場就業時間制限令廃止により女子の深夜就業も可能になった。

▶**焼夷弾の消火訓練(3月11日)** 東京市などが東京・蒲田の緑郷園錬成場で実施。爆発後、警防団や隣組代表らが消火した。写真は20キロ焼夷弾の爆発。

共同通信社

毎日新聞社

◀**「産業少戦士壮行大会」(3月19日)** 東京府・市が、これから軍需工場に就職する国民学校高等科卒業生を祝福するため、日比谷公園の特設会場で開催。東条英機首相も出席し、「少戦士」たちに激励の挨拶を述べた。

▶**ダンピールの悲劇(3月3日)** 南東太平洋方面の劣勢挽回のため陸軍は約6900人をニューギニアのラエに送ったが、ダンピール海峡で連合軍機の猛爆を受け(写真)失敗、約3300人が海没した。

◀**日比谷で炊き出し演習(3月1日)** 前年4月に空襲を経験した東京では戦局悪化とともに戦時訓練がさかんになった。大日本婦人会は日比谷野外音楽堂で、5升釜を使って握り飯の作り方を実演した。

共同通信社　毎日新聞社

昭和18年3月

1(月) ●ビールの銘柄・商標を廃止し「麦酒」に統一。
●紙芝居統制。マンガを禁止し、番組も二巻に。

2(火) ●日本野球連盟、用語の日本語化決定。セーフは「よし」、アウトは「ひけ」など。

3(水) ●ニューギニア増援の第五一師団輸送船団、全滅。三三〇〇人戦死(ダンピールの悲劇)。

4(木) ●横浜の国民学校の学芸会で、演目上位は出征兵士、戦時下の台所、救急看護と判明。

5(金) ●日劇正面に決戦標語記した百畳敷き写真掲示。

6(土) ●北海道倶知安町で映画館火災。二〇八人死亡。

7(日) ●東京府、健常者への牛乳配給を停止と決定。

8(月) ●成田山新勝寺、境内の巨木を船材として供出。

9(火) ●東京市、薪運搬用の筏会社経営を予算に計上。

10(水) ●宣伝奉公小隊、敵がい心あおるため東京・銀座の歩道に大きく米英国旗を描く。

11(木) ●警視庁、隣組代表らへの大型焼夷弾訓練実施。

12(金) ●大阪理工科大学(現・近畿大学)設立認可。

13(土) ●大阪府が、地下鉄構内の防空壕としての使用を禁止、と新聞に。

14(日) ●日本野球連盟、ユニフォームを軍服式に変更。

15(月) ●東京で「戦時下女性風俗維新大会」開催。

16(火) ●座布団利用の「愛国防空兜」の作り方が新聞に。

17(水) ●日本橋三越で「戦時型住宅」展示。建坪七・五坪(約二五平方メートル)で、六畳と三畳の二間。

18(木) ●商工省が玩具二九四二種を「戦時玩具」中心に五〇〇種に整理、と新聞に。

19(金) ●東京で「産業少戦士壮行大会」開催。

20(土) ●温泉協議会、旅館の料理屋兼業を禁止と決定。
●国鉄、特急の座席指定廃止(~4月10日)。

21(日) ●高等学校の落第増加、理系の質低下と新聞に。

22(月) ●木曽の御料地で造船用木材の伐り出し始まる。

23(火) ●融雪が遅れている新潟県で、延べ一〇〇万人動員し、人工消雪運動を展開、と新聞に。

24(水) ●商工省に金属回収本部設置。

25(木) ●日本初の長編動画「桃太郎の海鷲」封切。
●黒澤明監督第一作「姿三四郎」封切。

26(金) ●文部省、寺院・教会などを開放し、五〇〇カ所の錬成道場を増設と決定。

27(土) ●アッツ島増援部隊、米軍と交戦し輸送断念。

28(日) ●東京で五〇キロ走破の市民自転車隊走行会開催。

29(月) ●アメリカで、食肉・チーズの配給制開始。

30(火) ●東京・大阪の過密地帯で空襲時の延焼防止のため空地帯指定(「建物疎開」)。

31(水) ●日本水産・大洋漁業の前身が設立される。

▶「カチンの森」事件(4月13日)ベルリン放送が、ソ連の秘密警察に殺害された多数のポーランド人将校の遺体を発見したと放送。ソ連はこれを否定したが、1990年に事実と認め、謝罪した。

◀連合軍、北アフリカを確保(5月12日)モントゴメリー指揮下の連合軍に包囲された独・伊軍25万人が降伏。連合軍は地中海からの攻勢に道を開いた。写真は投降したイタリア軍将兵。

ユニフォト・プレス

▲増産優良工場にビールと菓子を特配(4月28日)警視庁労政課が月1回査定、第1回は東京の石川島造船所が選ばれた。一人ビール1杯かボンボン菓子1袋を格安で買うことができた。

共同通信社

◀湯川秀樹らに文化勲章(4月29日)7人が受章、右から朝比奈泰彦、和田英作、鈴木梅太郎、伊東忠太、湯川。徳富蘇峰と三宅雪嶺は病気のため欠席。蘇峰は昭和21年に勲章を返上した。

毎日新聞社

▼ワルシャワ・ゲットーでユダヤ人が蜂起(4月19日)飢餓と不衛生で多くの人命が失われる状況に、ついに決起。しかし、5月なかばに独軍に鎮圧され、5万人以上が強制収容所に送られた。

共同通信社

▼窓に飛散防止の紙テープ(4月)空襲の際の爆風に備え大阪で奨励。和紙をガラスの両面に斜めに貼った。前月には東京・大阪で空襲時の延焼防止のため空地帯を指定。空襲の緊迫感が次第に強まっていた。

毎日新聞社

▼ラバウル航空隊、「い号作戦」に集結(4月7日)連合艦隊司令長官・山本五十六が陣頭指揮をとり、ラバウル防衛と南太平洋での劣勢挽回のため残存航空兵力を集中して米軍に挑んだ。

毎日新聞社

昭和18年4月

1(木)●樺太が内地に編入される。
●夕張市・岩見沢市・長浜市など五市が発足。
●分娩費が健康保険給付の対象になる。
●三菱銀行、第百銀行を合併。
2(金)●旅行自粛要請をよそに行楽客で大混雑の上野駅で、切符の販売予定数を超え販売を中止。
3(土)●東京・銀座で鉄供出のため街灯の撤去式。
4(日)●独、ダラディエ元仏首相らを独に移送と発表。
5(月)●東京女子医専に「戦争未亡人」一四人入学。
6(火)●空襲警報のほか、警戒警報にもサイレンを使用することとなり、ラジオを通じて訓練実施。
7(水)●東京市内千余軒の喫茶店を空襲時の救護所に提供、と組合が警視庁に申し入れ。
8(木)●厚生省、出産増加と結婚奨励など「健民運動実施要綱」を各地方長官に通達。
9(金)●名古屋市、女性車掌の服装をもんぺに統一。
10(土)●戦争死亡保険の加入申し込み殺到、と新聞に。
11(日)●甲子園の阪神パークが基地転換のため閉鎖。
12(月)●東京の文化学院校主・西村伊作、不敬罪で検挙。
13(火)●独、ソ連領でポーランド将校約四〇〇〇人の遺体発見と発表(「カチンの森」事件)。
14(水)●大日本婦人会がオムツの再利用推進と新聞に。
15(木)●女子学校報国隊幹部に防空補助員の教育実施。
16(金)●第一六軍、ジャワでプートラ(民族総力結集運動。委員長スカルノ)本部の開所式。
17(土)●埼玉県下二二〇〇寺院を避難所に開放と決定。
18(日)●連合艦隊司令長官・山本五十六、戦死。
19(月)●ワルシャワ・ゲットーでユダヤ人が武装蜂起。
20(火)●奈良県陵西村(現・大和高田市)で、飯米不足から主婦五〇人が村役場に殺到し増配を陳情。
21(水)●酒類の配給が本年度から好みによる選択制に。
22(木)●マンガ家六〇人が、東京の新宿・銀座などの街頭で一枚二円の似顔絵を描き建艦献納運動。
23(金)●内務省からナイロン研究を命令された東洋レーヨン、工業化の試験設備を公開。
24(土)●名古屋の愛知一中・中京商などが野球部解散。
25(日)●大衆食堂で夕定食五〇銭など自粛価格実施。
●連合艦隊新長官・古賀峯一、極秘裡に着任。
26(月)●大政翼賛会、国民歌「みたみわれ」の当選曲発表(7月6日、藤原義江の歌で発表)。
27(火)●大蔵省が勲章鋳造の専門部署を新設と新聞に。
28(水)●東京六大学野球廃止(12日東都大学野球廃止)。
29(木)●鈴木梅太郎・湯川秀樹ら七人が文化勲章受章。
30(金)●国鉄、枕木の間隔をあけ配置数を節約。

証言・あの日この日

日夏耿之介(52)

2月5日(金) 〈朝、日蝕也。七時三十八分蝕　甚。予所有の鷗外和歌生絹本を岩波にて撮影して送りくれし種板が二枚に毀れてありしを用ゐて瞰む。厚意にて薪を割りに来てくれてありしとなりの隣組の組長サンを呼びてのぞかしむ〉(日夏耿之介『聴雪盧日記鈔』)

日本軍はガダルカナル島から一万人余の兵士の撤退を始め(2月1日)、それが完了し(2月7日)、いよいよ戦況が悪化しようという、その頃、本土では日食があった。北海道釧路では中央気象台観測班や京大観測隊が、およそ2分間の皆既日食の観測に成功する。東京・杉並で超俗的生活を送っていた黄眠道人こと詩人で英文学者の日夏耿之介(彼は当時毎日のように『史記』を読み進めていた)も、毀れた種板を手にそれを見た。人々はその日食に何を思い見たことだろう。　(坪内祐三)

WWP

▼供出銅像の除魂式(5月29日)寺社などの大切な銅像にまで金属回収・供出運動がおよぶようになったため開催。写真は高松市の高松城内で行われたもの。日蓮上人、二宮金次郎など約70体が集められた。

毎日新聞社

▲アッツ島玉砕(5月29日)米軍の本土侵攻を妨害するため前年6月、同じアリューシャン列島のキスカ島とともに占領。しかし12日からの米軍の猛攻に耐えきれず、山崎保代大佐以下約2500人が全滅した。

▼燃料不足の象徴、親子電車(5月)前年のミッドウェー海戦以降、南方からの海上輸送力が激減、ガソリンの供給不足が目立った。写真は東京・銀座4丁目付近で「窮余の策」、市電でバスを牽引。

毎日新聞社

▼東大五月祭に高射砲(5月8日)第一工学部では高射砲算定具なども展示、火炎放射器の実演も行われた。10月には学生の徴兵猶予が停止され、学徒出陣が始まる。大学祭も決戦色が強かった。

毎日新聞社

昭和18年5月

1(土)●薪が配給制になり、自家用生産も許可制に。
●日本漫画奉公会(会長・北沢楽天)結成。
2(日)●生保・簡保契約高が五〇〇億円突破と新聞に。
3(月)●静岡で新茶の初取り引き。最高級品は一貫(三・七五キロ)当たり一四円。
4(火)●北海道でにしんが大漁、東京にも大量に入荷。
5(水)●陸軍少年兵の志願年齢を一四歳に引き下げ。
●東京産業報国会、決戦型の髪型・化粧を発表。
6(木)●熊本県、市川猿之助一座の「玄冶店」を風紀上問題として検閲拒否、上演中止に。
7(金)●重要産業労働者にタバコ「金鵄」を割引特配。
8(土)●東大五月祭で火炎放射器実演や光学兵器展示。
9(日)●北海道幌別村が米潜水艦の砲撃を受ける。
10(月)●三井神岡鉱業所の朝鮮人労働者二〇〇人が、殴打事件に抗議行動(12日全員検束)。
●名古屋市でトロリーバスが運行開始。
11(火)●火野葦平、「陸軍」を「朝日新聞」に連載開始。
12(水)●独伊軍二五万、北アフリカ戦線で降伏。
13(木)●大相撲、前夜来の警戒警報で休場(16日再開)。
14(金)●東京市、常会で中元の虚礼廃止徹底を決定。
15(土)●国鉄、切符買い占め防止で一人一枚に制限。
16(日)●チャンドラ・ボース、亡命先の独から来日。
17(月)●南方向けのかな書き『実用日本語四千語』が近く完成、と新聞に。
18(火)●商工省、浴用石鹸を洗濯用と同成分に改定。
●日本美術報国会(会長・横山大観)創立。
19(水)●「日の丸捕鯨部隊」が木造船で出漁と新聞に。
20(木)●満州への「開拓花嫁」候補三一人が上京。
21(金)●大本営、山本五十六の戦死(4月18日)を公表。
22(土)●前日の大相撲で引き分けの青葉山・龍王山に「敢闘精神なし」と出場停止処分。
23(日)●フィリピンで衣料切符制実施、と新聞に。
24(月)●政府、遊休自動車の回収と活用を決定。
25(火)●東京の国民学校で「敵機爆音レコード」による敵機判別の音感教育を開始。
26(水)●中央公論社社員ら四人、共産党再建を謀議したとの捏造の容疑で逮捕(横浜事件)。
27(木)●初の夜間女子専門学校が東京・芝区に開校。
28(金)●野菜・魚などの小包郵便停止、と新聞に。
29(土)●アッツ島守備隊、玉砕。
30(日)●谷萩大本営陸軍報道部長、ラジオを通じ、アッツ島玉砕の模様を放送。
31(月)●御前会議、「大東亜政略指導大綱」決定。マレー・蘭印(現・インドネシア)の領土編入など。

毎日新聞社

▲工場就業時間制限令廃止（6月16日）女子と16歳未満男子の深夜業務・危険作業が可能になった。写真は九州の兵器工場。女子も男子と同じように働かされた。

毎日新聞社

◀銀座の歩道にも防空壕（6月26日）内務省は公共待避所を急設するよう地方長官に通達。経費をかけず新資材も使わずとの要望で、工事には主婦も駆り出された。

▼天皇、戦艦「武蔵」に行幸（6月24日）横須賀海軍工廠の訪問を名目に、存在が秘密だった連合艦隊旗艦を見学。中央に天皇、左に高松宮。海相、軍令部総長など海軍首脳結集の最後の写真だった。

朝日新聞社

▲山本五十六、国葬（6月5日）連合艦隊司令長官として人気があったが、4月18日、前線を視察中米軍機に撃墜され戦死。写真は東京・日比谷公園葬場に向かう柩の列。

◀「貯蓄なくして勝利なし」（6月9日）軍費調達のため大政翼賛会と東京市は国民に貯蓄を勧める移動講演会を実施。写真は東京・荏原区の戸越国民学校での賀屋蔵相。

朝日新聞社

昭和18年6月

1（火）●告別式用のロウソクが切符配給制になる。

2（水）●北海道で発疹チフス蔓延、この日までに三三一人が罹患し三一人死亡。

3（木）●最低限必要な日用品の供給確保のため、「戦時必需日用品」二六二品目を指定。

4（金）●閣議、衣料簡素化の新体制要綱決定。婦人標準服の普及、もんぺ常用、男子は国民服など。

5（土）●山本五十六の国葬が日比谷公園で行われる。

6（日）●商工省、繕い布用に不合格絹織物販売を決定。

7（月）●菊池寛らを講師に第一回「思想戦大学」開講。

8（火）●広島湾内で戦艦「陸奥」が爆発事故で沈没。

9（水）●神奈川県、木材節約のため卒塔婆を禁止。

10（木）●日本最初の競馬場、横浜の根岸競馬場閉鎖。

11（金）●警視庁、軍需工場を荒らす窃盗団七九人検挙。

12（土）●食糧国防団、全国三〇〇ヵ所の休閑地の農園化を、約一〇万人の団員に指令。

13（日）●日本水上連盟、男子の水着を廃止し褌を採用。

14（月）●斎藤隆夫・西尾末広ら衆院議員五〇人、反翼賛政治会の「八日会」を結成。

15（火）●洋傘修理・刃物研ぎなどを行う東京市の戦時家庭用品更生協会創立。

16（水）●女子・年少者の深夜業と坑内作業を認可。

17（木）●名古屋鉄道局が四〇〇〇人の女性雇用を決定。

18（金）●米英音楽審査会、楽譜を廃棄する「敵国音楽」の曲名を全国に通達。

19（土）●政府、報国隊員の年齢を満五〇歳未満に引き上げ。労働力増強をはかる。

20（日）●牧口常三郎・戸田城聖ら創価教育学会幹部、治安維持法違反と神宮に対する不敬罪で検挙。

21（月）●中野正剛、幹部による言論統制を不満とし、翼賛政治会を脱退（22日鳩山一郎も）。

22（火）●駅弁を長距離客に優先販売。持ち帰りは厳禁。

23（水）●正力松太郎・緒方竹虎らを情報局参与に任命。

24（木）●行列解消に酒場・ビヤホールで順番票交付。

25（金）●閣議、学徒戦時動員体制確立要綱を決定。学生の軍事訓練と勤労動員を徹底。

26（土）●丹羽文雄、海軍の圧力を受け『報道班員の手記』絶版を表明。

27（日）●東京府結婚奨励組合、初の集団見合いを開催。

28（月）●東京で米の代用にじゃがいもの配給開始。

29（火）●東京市と柳橋芸妓組合、講演会で、芸妓も「お座敷外では国民服を」と呼びかけ。

30（水）●日本証券取引所設立。東京・大阪・名古屋など全国一一ヵ所の株式市場を統合。

20世紀博物館

お札と切手の博物館

紙幣の上に印刷された〝戦時〟の事情

東京・新宿区

桑原茂夫

戦時中の物資不足はお金の価値を著しく下げた。ほしいモノがあって、いくらお金を積んでも、ないモノはない。手に入らないのである。かくして紙幣は紙きれという〝モノ〟に限りなく近づく。大変なことだ。しかし、こういうことが起きるのが戦時なのだとも思う。

大蔵省印刷局記念館「お札と切手の博物館」で紙幣のイロハを教わって、さらに驚かされた。紙幣とはもともと、金貨や銀貨など、それ自体モノとして価値のある通貨に換えられる〝兌換紙幣〟だったということに驚かされたのである。

博物館に並んだ昔の紙幣には「此券引換に金貨拾圓相渡可申候」などと明記されている。まさに紙幣は引換券だったのである。しかし戦時中の昭和一七年に〝兌換銀行券条例〟に基づく最後の〝日本銀行兌換券〟が発行され、それ以降、紙幣はすべて〝不換紙幣〟となった。

ただ、博物館の担当官に指摘されて、千円札や一万円札と、一円や五百円の硬貨を見比べると、硬貨にはどれにも〝日本国〟と刻んであるのに、紙幣には〝日本銀行券〟とあるだけで、国家発行の通貨とはどこにも記されていない。

紙幣は意外と、信用だけで成り立っている通貨なのであって、不思議な価値をずいぶん大威張りで主張しているシロモノなのだ。

ところで、紙幣は紙に印刷されたモノなので、ニセ札が登場しやすい。特に現代のように、一般に使用されている複写機が高度なものになってくると、簡単に偽造できそうである。ところが、そうは問屋がおろさない。紙幣を作る側は、複写機では再現できない細密部分を作ったり、複写機を通すと写らない部分を作ったり、いろいろと工夫しているので、やすやすとは真似できないようになっている。

まず、印刷する原版は手で彫っている。しかも普通の製版では再現できないような細かい図柄も彫る。具体的には一ミリ幅のスペースに一一本の線を彫るという。本当はもっと細かく彫れるのだそうだが、刷る段階で、そこまで細かくできないから、そのレベルにとどめている。

ある時期からお札につきものとなった有名人の肖像画も、細かい線の積み重ねで描かれており、彫師（工芸官）独特の表現がそこにはある。たとえば、聖徳太子はこれまで七種類の紙幣に使われてきたが、どれも一様のものではない。彫師のクセが表れてしまうのだそうだ。

ところでこの彫師たちだが、彼らがその持てる力を発揮するのは、新しい札の出る〝改札〟の時。しかしそう改札があるわけではない。

そこでウデを衰えさせないように、毎日彫る。切手や印紙（こういった国家レベルの有価証券も大蔵省印刷局で印刷している）を彫るのはもちろんのこと、カレンダーを一枚一枚彫ったりして、ウデを磨いているそうだ。いつか来るべき改札の時のために！

この博物館をひとめぐりすると、そのような彫師のワザに接することもできるし、お金に対する見方がずいぶんと変わったものになる可能性がある。

平野美津子

▶聖徳太子像から彫られた四枚の肖像。各彫師の特徴が出ている。

▶日本の古い紙幣から、世界中の珍しい紙幣まで二千余種の紙幣が展示されているギャラリー。

▼明治初期に、ドイツに依頼して作った精密印刷による紙幣。ゲルマン紙幣と呼ばれた。

▼戦時中に印刷・発行された切手。「敵国降伏」と刷られていたり、大東亜共栄圏がイメージされたり、戦時色にあふれていた。

●お札と切手の博物館
東京都新宿区市谷本村町九—五
☎〇三—三二六八—三二七一
JR中央線市ケ谷駅下車、徒歩一五分
開館時間＝九時三〇分～一六時三〇分
休館日＝月曜日
入場無料

統制強化の中で刊行された『死者の書』『司馬遷』の意味

この年になると、内閣情報局による言論統制はさらに厳しくなり、雑誌「中央公論」に連載中の谷崎潤一郎の「細雪」が、連載二回で中断させられるなど、書籍刊行以前にまで統制の力がおよんだ。

これは、出版界の統制機関である「日本出版文化協会」が、この年三月「日本出版会」となって、出版統制がさらに強化されたことと表裏一体をなしている。

日本出版会は、出版物の事前審査や発行許可、用紙割当など、出版活動の首根っこをおさえる実権を握っていただけでなく、出版社そのものの整理統合を進める役割を担ったのである。実際、それまで三千七百社余あったのが、一気に二百社余になっている。

こうした統制強化は、流通面や用紙販売についてもはかられた。流通面では出版配給株式会社のもとに一元化されて、それ以外のルートを通じての出版などは、とうてい考えられない状態になっていった。用紙販売も一元化された。紙共販株式会社が作られ、それぞれの用紙販売店はこれに統合されたのだった。これら出版物の流通や用紙販売のすべてが、日本出版会のもとで行われたのである。出版社はまずは用紙獲得に狂奔せざるをえなくなった。

整理統合されたのは出版社だけではない。雑誌にもその力がおよんだ。「演劇界」はその代表的な例で、いくつかの演劇雑誌を整理統合して生まれた、歌舞伎など伝統演劇を中心にした雑誌だった。

こんな時代に生まれた傑作のひとつに折口信夫の『死者の書』（青磁社）がある。神話的世界を素材にしたファンタジーで、言語に対する深い洞察に支えられた作品でもある。

また武田泰淳が『司馬遷』（日本評論社）を発表して、書くということの本質に迫った。名著『史記』を著した司馬遷の、記録への執念をテーマにしたこの物語は、その冒頭に「司馬遷は生き恥さらした男である」と記して、大方のど肝を抜いた。

▲武田泰淳著『司馬遷』。4月5日、日本評論社から東洋思想叢書の一冊として刊行された。

▶演劇雑誌が統合されて発行された。

▶折口信夫著『死者の書』。青磁社刊。

「姿三四郎」「無法松の一生」に残された戦争の“爪痕”

太平洋戦争ただ中のこの年、日本映画界に新しいスターが誕生した。スターといっても役者ではない。黒澤明（三三）が監督としてデビューしたのである。

作品は「姿三四郎」。前年（昭和一七年）に刊行された富田常雄の本格柔道小説を映画化したもの。物語は、姿三四郎（藤田進）が柔道家として次第に成長していく過程を追ったもので、そこに師匠の矢野正五郎（大河内伝次郎）やライバルの柔術家・村井半助（志村喬）と、その弟子で手ごわい相手となった檜垣源之助（月形龍之介）などがからみ、村井の娘（轟夕起子）と姿三四郎の淡い恋も描かれている。この時代ならではの精神論的な部分はあるものの、格闘シーンなど劇画を見るようにリアルだ。

ただ、翌年再公開された時、スタッフには無断で、当局の手で一八五六フィートもカットされた。戦後、昭和二七年公開時のフィルムに、そのむね明記されている。

また、伊丹万作のシナリオで稲垣浩監督が撮った「無法松の一生」がこの年を代表する映画だった。主演は阪東妻三郎。人力車を引く松五郎と陸軍大尉の未亡人とその息子との心温まる交流を描いた作品だが、戦争未亡人に想いを寄せるのはけしからんと、クライマックス・シーンをカットされてしまった。

ほかに次のような映画が公開されている。かっこ内はおもな出演者。

「伊那の勘太郎」（長谷川一夫）「ハナ子さん」（轟夕起子）「歌行燈」（花柳章太郎、山田五十鈴）「熱風」（原節子、藤田進）「海軍」（山内明）

東宝提供

▲泉鏡花原作の「歌行燈」より。見事な舞を披露するヒロイン（山田五十鈴）。

▼「無法松の一生」より。人力車を引く松五郎（阪東妻三郎）と未亡人の息子との交流。

大映提供

黒澤プロ／東宝提供

▲「姿三四郎」より。姿三四郎（藤田進）と柔術家・村井半助の娘（轟夕起子）との出会い。

“足らぬ足らぬは工夫が足らぬ”で「ハンドル式電灯」「竹製かぶと」「礼装用もんぺ」考案

▶**女性たちがもんぺの下に隠していたもの** この年8月31日、大日本婦人会都支部は和服の袖丈を短くする運動を始めた。「贅沢は敵」の具体的行動でもある。一方で、出征前の切実な結婚式もあり、その式に参列する女性たちはなんとか袖丈の長い晴れ着を着ようとした。そこから生まれたのが、写真の「礼装用もんぺ」だった。これを晴れ着の上から着用し、袖口と足首はゴムなどでとめた。写真ではえり元から、中に着た晴れ着のえりが見えているが、実際には道中見つからないように隠していた。 水島衣裳道具博物館蔵

サッポロビール蔵

▲**ビールも厳格な統制下に入った** 4月、当局は酒類業団体法を制定して酒類全般の生産と配給を強力に統制することになった。それと同時に、ビールも銘柄別のラベルを廃止することになった。大日本麦酒（現・サッポロビール）のビールだろうが、麒麟麦酒（現・キリンビール）のビールだろうが、すべて「麦酒」と表記され、家庭用、業務用など用途別に売られたのである。小さく表記された製造会社名も翌年には消え、ビール瓶の容量も統一された。

▶**光学機器の高度な技術** 遠くのものを近くに引き寄せて見る望遠鏡の類や、望遠鏡の像から距離を測定する測距儀、カメラの類にいたるまで、光学機器の技術は、戦争における情報戦に欠かせないものである。日本光学工業（現・ニコン）が開発した写真の「砲隊鏡」は、その形からカニメガネと称され、敵陣の偵察や砲弾の行方を観測するのに使われた。視界が広く、優れた機器だった。

◀**ヘルメットにも代用品** 一般人が空襲時などに身を守る防具として「竹製かぶと」が売り出された。実際は防空演習時に使われ、重さ600グラムと軽量だが、散弾ぐらいなら、はね返すだけの強さはあった。デパートで購入することができた。 埼玉県平和資料館蔵

埼玉県平和資料館蔵

▲**戦火に対する備えを万全に** 戦争が激しくなった時、一般の人にとって大きな恐怖となるのは砲弾であり、火である。上空から落とされる焼夷弾はまさに“敵”そのものだった。もともとは日常防災用に開発された「宮下式消火弾」も、いざとなったら火もとに投げつける武器となった。しかし防空壕などに避難している間に出火すれば役立たなかった。

◀**息切れの薬は切れなかった** 動悸や息切れの薬として名の知れた「救心」（救心製薬所、現・救心）は、戦時中といえども発売され、常備薬として役立っていた。強いショックを受けた時の気つけ薬としての役割も期待されていた。パッケージにある“皇漢”とは、大陸から輸入され日本独自の薬となったものであることを意味しており、日本製漢方薬であることを強く打ち出している。また配合された8種類の生薬のほとんどが動物性のものだった。

◀**握力がポイントとなる電灯があった** この年、資源不足は深刻な様相を呈してきた。電力も例外ではない。そこで登場したのがハンドルを握って点灯する「ほたる」だ。自転車をこいでヘッドライトをつけるのと同じように、ハンドルを握ってダイナモ発電機を作動させる仕組み。電球を取り替えさえすれば、半永久的に使用することが可能だった。

人物クローズアップ

山本五十六（五九）

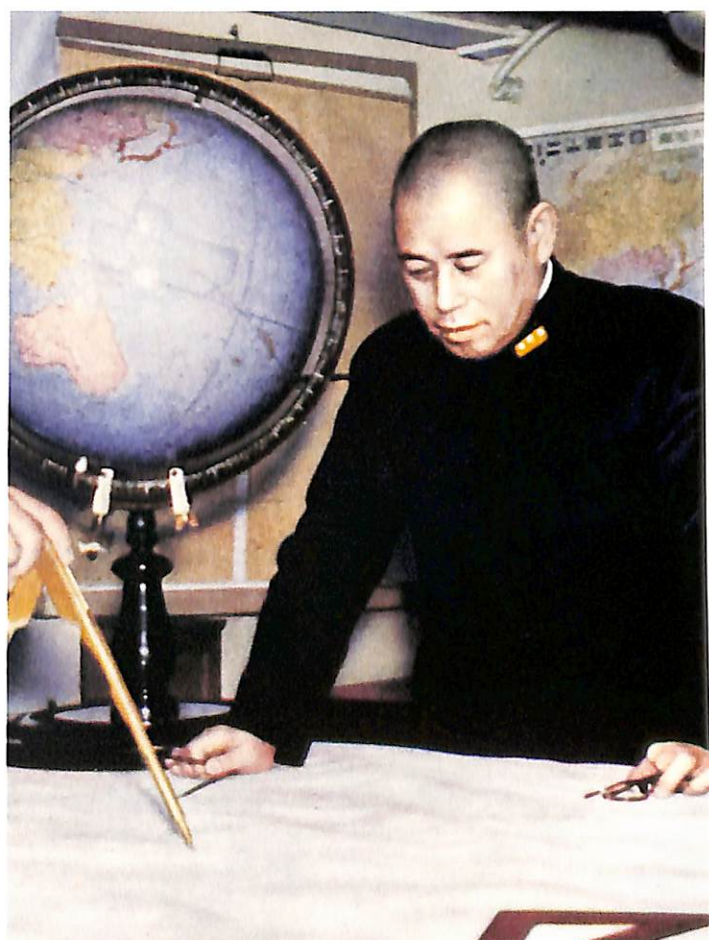
「合理家かつ人情家」ゆえの戦死 ソロモン上空で"待ち伏せ"に！

昭和一八年四月一八日午前七時半頃、連合艦隊司令長官・山本五十六（五九）は、飛行機でソロモン諸島方面の最前線基地、バラレへ向かう途中、ソロモン諸島のブーゲンビル島上空で、米戦闘機P38ライトニング一六機の待ち伏せ攻撃を受けて戦死した。

山本は、明治一七年四月四日、新潟県長岡玉蔵院町（現・長岡市）に生まれた。同三七年、海軍兵学校を卒業。

大正八年から約二年間、アメリカ駐在を命じられてハーバード大学に学び、さらに大正一四年から昭和三年までアメリカ大使館付武官をつとめた。また、大正一三年に霞ケ浦航空隊副長をつとめた頃から航空の分野と関係を深め、以後、昭和一一年に海軍次官になるまで、ほとんどの期間、航空本部長など航空関係の要職にあって、航空兵力の充実、特に搭乗員の育成に力を注いだ。

昭和一四年、連合艦隊司令長官に就任。航空兵力の重視、対米戦回避が基本的な考え方だったが、現場の指揮官としての立場を守り、日米開戦に関する政治的な動きはいっさいしなかったと伝えられる。

日米開戦が避けられなくなった時、山本はみずから真珠湾奇襲攻撃を立案、軍令部などの強い反対を押し切って決行した。短期決戦こそアメリカに対してとりうる唯一の戦略だとする信念、そして、「弱い敵と戦う」という戦術の常道を忠実に実行しようとするものだった。この時、山本が育てた空母機動部隊は、最高の練度に到達していたのだ。

▲連合艦隊司令長官就任の翌年、大将となり、死後、元帥を贈られた。

しかし、その後の戦いは山本の考えたとおりには進まず、海軍航空部隊は、ソロモン方面ではてしのない消耗戦に巻きこまれる。山本の恐れていたことが起きようとしていた。

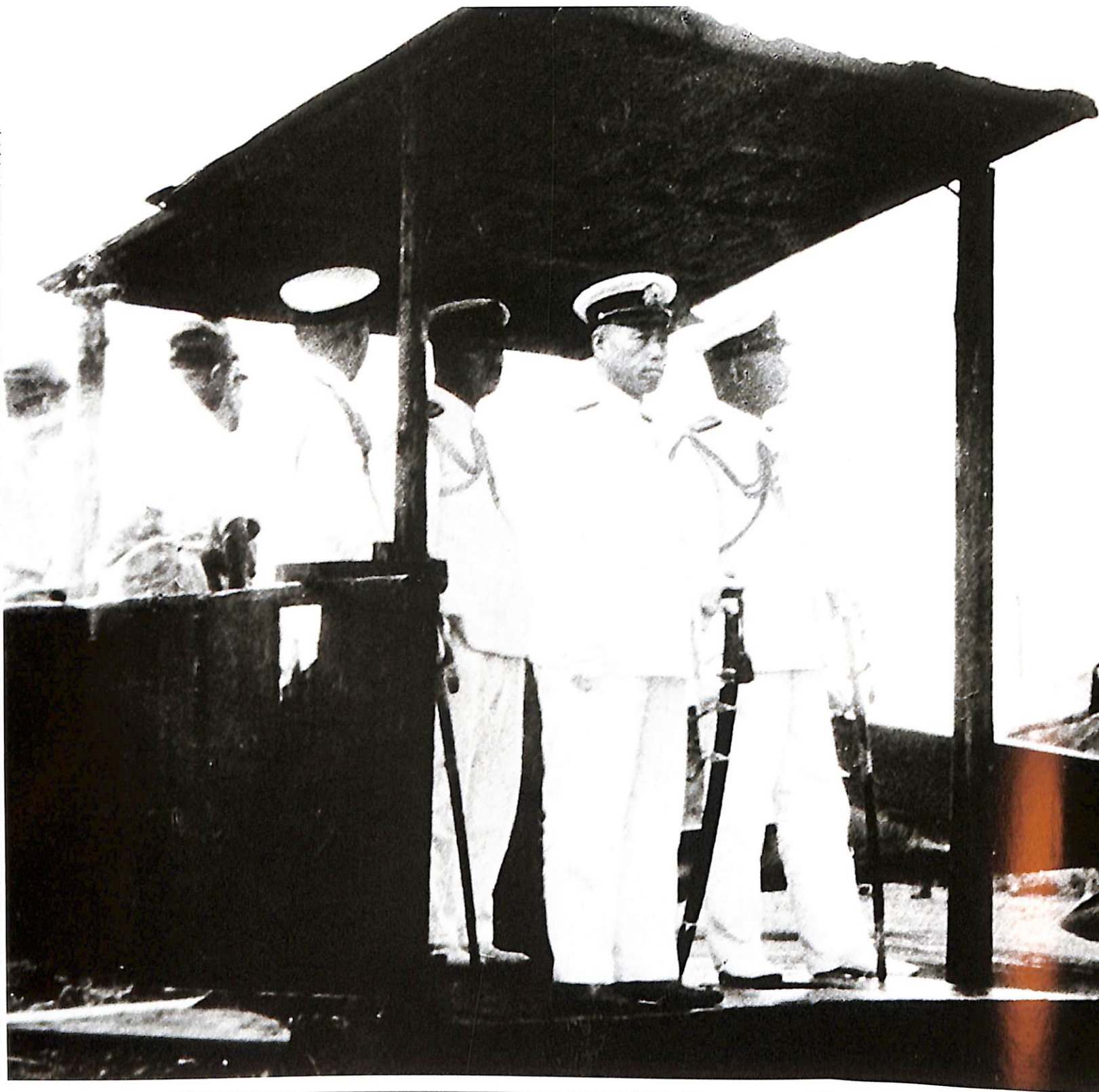
昭和一八年四月三日、山本はトラック島からラバウルに進出し、「い号作戦」の直接指揮をとった。この頃アメリカは、ソロモン方面に兵力を集中し、ガダルカナル島撤退後の日本に対する攻勢を一段と強めようとしていた。これを早めにつぶそうとするのが「い号作戦」で、山本は、虎の子である航空母艦からまで兵力を引き抜き、ラバウルをはじめとするソロモン方面の基地に展開させた。

情報が重視される近代戦では、上級司令部を前線に置くのはきわめて異例のことである。当然、反対があった。しかし、山本はここでもそれを押し切って、自分の意志を貫いた。「指揮官先頭」という海軍の伝統を実践するのは、今この時だという信念に基づく判断だった。

「い号作戦」は一六日終了。戦闘は一段落した。このため山本は念願だった第一線部隊の視察を行おうとして、待ち伏せ攻撃を受けたのである。米軍は暗号を解読し、山本の行動を正確に把握して緻密な攻撃計画を立てていた。

ラバウルでの山本は、部隊の出撃があるとかならず指揮所を出て、帽子を振って飛び立っていく将兵を見送ったと言われる。山本が危険を冒して最前線の基地を訪れようとしたのも、連日の出撃で疲労の極にあった搭乗員を励まし、勇気づけるためだった。そして彼らはすべて、山本がアメリカという強敵を見据えて鍛え上げた秘蔵っ子たちだったのである。

「合理家かつ人情家」というのが、山本をよく知る人たちの評である。山本の死は、その合理と人情の接点であったと言えるのかもしれない。山本の遺体は翌一九日に発見され、前線基地のひとつ、ブインで荼毘に付された。しかしその死は約一ヵ月間秘匿され、五月二一日公表、六月五日に国葬が行われた。

◀大正七年、三四歳で結婚。礼子夫人と。

▶ラバウル基地で、出撃する零戦を見送る山本（右から二人目）。姿勢を正し、頭上で大きく帽子をまわす海軍式の「帽振れ」をかたくなに守った。

潮書房 光人社提供

決定的瞬間

日系写真家・宮武東洋が手作りのカメラで撮ったマンザナー収容所の内側

宮武東洋 Archie Miyatake デジタルハウス

吹きすさぶ風と砂ぼこり。シエラネバダ山脈の東側に建設された、マンザナー収容所（再配置センター）はけっして居心地のいいところではない。三〇〇棟もの細長い長屋が立ち並び、急ごしらえのため隙間だらけの長屋のまわりは、鉄条網に囲まれ、監視塔が立つ。

日米開戦後、一九四二年（昭和一七）に入ると大統領令九〇六六号によって日系人たちは、国籍のあるなしにかかわらず、家と財産を失い、太平洋側の各州から立ち退きを命ぜられた。内陸部に設けられた一〇ヵ所の収容所に、約一一万二〇〇〇人もの人が移動を余儀なくされたのだ。マンザナー収容所はそのひとつで、ピーク時には一万人近くもの日系人が暮らしていた。

その中の一人に、宮武東洋（四六）もいた。彼は、ロサンゼルス発行の日系新聞「羅府新報」の契約カメラマンであり、日本の新聞社にも寄稿する報道カメラマンだった。

彼はマンザナー収容所に送りこまれた時、こっそりとレンズを持ちこみ、水道管を加工、大工に依頼して箱を作り、苦労をしてカメラを作り上げた。そして身のまわりで暮らす人たちの写真を撮り始めたのだ。

こうして歴史上唯一の、収容所を内側から撮った貴重な記録が残った。

しかし、監視の目の厳しい収容所内で秘密裡に写真を撮り続けることはできるものではない。そのあたりの事情を、宮武東洋のよき理解者である、写真家・細江英公氏は、東洋自身から聞いた話として、次のように語る。

「ある日、収容所の所長が彼を呼び、カメラマンがカメラを持てないのは鳥が翼を持たないのと同じだ。だからあなたは写真を撮ってもいい、と撮影を許された。東洋氏が部屋を出ようとすると、ところで〝エドワード・ウエストンがよろしく〟と言っていたよ、と所長は言ったそうです」

エドワード・ウエストンとはアメリカを代表する写真家である。そのウエストンがまだ売れない頃、宮武はリトル東京で個展の世話をしたり、ウエストンが悩むと「砂漠に行けばいい、人間の小ささがわかる」と相談にのったりしていた。こうした宮武の人間としての優しさを忘れなかったウエストンが、裏で動いていたのだ。

一部屋に二家族が住むことも珍しくなく、隣の家族とはシーツや毛布を垂らして区別し、トイレやシャワーを使う時には長い行列に耐えるという生活。これがマンザナー収容所の生活だった。みんな戦争という狂気の犠牲者だった。

しかし、人々はそれを乗り越えて生きようとしていた。写真の群像をよく見ると、表情の中に前向きな明るさが見える。宮武東洋の「優しさ」と「強さ」が感光しているからだ。

▲カリフォルニア州マンザナー収容所の日系人たち。昭和17年、約11万2000人の日系人はアメリカの7つの州に設けられた10ヵ所の収容所（再配置センター）に強制収容された。ここもそのうちのひとつ。不自由で厳しい生活を強いられた。

美の出会い

アニメ草創期の傑作、続々登場！ディズニー映画にも劣らない「くもとちゅうりっぷ」の幻想の世界

◀「桃太郎の海鷲」のポスター。瀬尾光世が全力を注いで製作した。動物たちの動きが愛らしい。

昭和一八年四月、日本のアニメーションの草創期を代表する作家・政岡憲三（四四）の傑作「くもとちゅうりっぷ」が公開された。時はまさに戦時下、映画配給会社の松竹は「世界的水準に輝く傑作」という宣伝句をつけて世に送り出した。

「くもとちゅうりっぷ」の原作は、横山美智子の童話集『よい子つよい子』。かわいらしい少女のテントウムシが、夏の日を楽しんでいるところに、カンカン帽をかぶって白いマフラーをつけたクモが現れ、彼女をしつこく誘惑する。テントウムシはチューリップに助けを求めて花の中に逃げると、クモはチューリップを糸でぐるぐる巻きにするが、突然の嵐にクモは飛ばされてしまう。こうして平和が訪れるという単調なストーリーで、たった一五分の短編であったが、当時、アニメの世界をリードしていたウォルト・ディズニーの「シリー・シンフォニー」に劣らない出来であると評価された。

音楽は東京音楽学校で教鞭をとっていた弘田竜太郎が担当。制作にたずさわったアニメーターは、延べ五六八人におよんだ。政岡夫人の阿彌子さんが、実際にテントウムシのコスチュームを作り、アニメーターの前でモデルになった。また、雨のシーンの動画を担当した土井研二は、雨が降るたびに観察しスケッチを続けたという。こんなエピソードにも、細部まで完璧さを求める政岡の美意識がよくうかがえる。

映画評論家で作家の小野耕世氏は、「雨のシーンを見ているとうっとりとして、幻想の中に引きこまれるようだ。雨が夢のように描かれている」と絶賛。

「政岡憲三は自分自身の映画を作った。それは戦前の最も優れたアニメである。戦争プロパガンダの多い当時の映画界を考えると、本当に奇跡だと思える。彼は採算を考えて画像の動きを制限することなど考えもしなかったので、今のアニメよりも柔らかで優雅な動きを作り出すことができた。現在見ても素晴らしいアニメです」と小野氏は続ける。

この年はアニメの当たり年で、三月、日本で最初の長編アニメ「桃太郎の海鷲」が芸術映画社から公開され、興行収入六六五万円（現在の一・五億～一・六億円に相当）という大成功をおさめた。演出は政岡のもとでアニメを学んできた瀬尾光世（三一）。前年の昭和一七年の新春早々、海軍省から真珠湾攻撃で成功した海軍の活躍をテーマにしたアニメの制作を依頼された彼はニュース・フィルムをもとに、桃太郎と犬、猿、きじらが大活躍するアニメを、たった三人のスタッフで昼夜を問わず制作。三〇分のフィルムが完成した。戦争のプロパガンダ映画にもかかわらず、特にうさぎのどかな感じがあって、特にうさぎのかわいらしさなどが印象的だった。

次いで一八年九月、松竹にスカウトされた瀬尾は「桃太郎・海の神兵」に着手。ここでは政岡もアニメスタッフの指導にあたった。一年二ヵ月をかけてセル画五万枚を使ったアニメが完成。昭和二〇年、終戦の前に公開された。大阪の映画館でこの映画を見た、当時高校生だった手塚治虫は、「日本にもこういう優れた技術のアニメができるようになったんだ」と感動したという。

この「桃太郎・海の神兵」の映像フィルムは、終戦時に焼却されたと思われていたが、昭和五七年に松竹の大船の倉庫で発見、四月七日に東京の国立フィルムセンターで上映されたが、あらためて「戦時下にこんな素晴らしいアニメが作れたなんて」との感動の声を集めた。

▲「くもとちゅうりっぷ」より。主人公のテントウムシ

▲▼「くもとちゅうりっぷ」より。戦時下の時局に合わないため文部省推薦にはならなかったが、画像の美しさ、夢のある物語は、今見ても新鮮である。

松竹　アンドウ アニメーション ミュージアム提供（4点とも）

「現場」を歩く

登呂

考古学史に残る「遺跡」への国民的関心の移ろい

山本徹美

大橋俊夫

▲登呂遺跡はJR静岡駅の南東約2.5キロの位置にある。写真は弥生時代の復元住居。

◀昭和18年に発見された弥生時代の畔道の木柵。 毎日新聞社

昭和一八年六月中旬、静岡市にある中田国民学校に「教材に使って」と土器などが持ちこまれた。七月六日、考古学に詳しい訓導・安本博氏が出土品を鑑定。奈良県・唐古遺跡を発掘調査した経験を持つ安本氏は、弥生時代の遺物に間違いないと断定。すぐさま、採取地へ。

そこは六万坪（約二〇万平方メートル）もの軍需工場用地で、地表約一メートルの深さで削られ、その「一面に弥生式土器片の散布が見られた」（安本報告書）。登呂遺跡の発見である。

「巨大遺跡発見」の報は市や県の関係者のみならず文部省にも伝えられ、第一次調査が開始。同年九月一七日、戦争激化によって中断したが、採取された出土品は、八四六点を数えた。これには高床式倉庫の復元を可能にする柱をはじめ、丸木船、木製の各種農具、木器などが含まれる。

大発見ではあったが、戦時中でしかも場所が軍需工場とあって、「毎日新聞」だけが小さく報道するにとどまった。

昭和二〇年六月二〇日、静岡は米軍の大空襲を受け、保管してあった登呂遺跡出土品の大半を焼失してしまう。

昭和二二年七月一三日、登呂遺跡第二次調査開始。文部省からは齋藤忠氏（現・静岡県埋蔵文化財調査研究所所長＝八九）が技官として派遣された。

「わが国にも優れた古代文明があったことが証明された。敗戦によって沈滞ムードが蔓延していましたが、『登呂』は多くの国民を勇気づけました」（齋藤氏）

物資に乏しく、食糧難で、米は配給制。発掘には地元の旧制中学、女学校に通う学生たち五八人が無償で参加。小長谷眞人氏（現・六七）もその一員だった。

「現場はもと鰻や亀のいた沼で、泥んこの作業でした。でも遺物保護の面ではそれが好都合だった。採掘した木器は空気に触れるとすぐボロボロに崩れた」

年々減っていく見学者

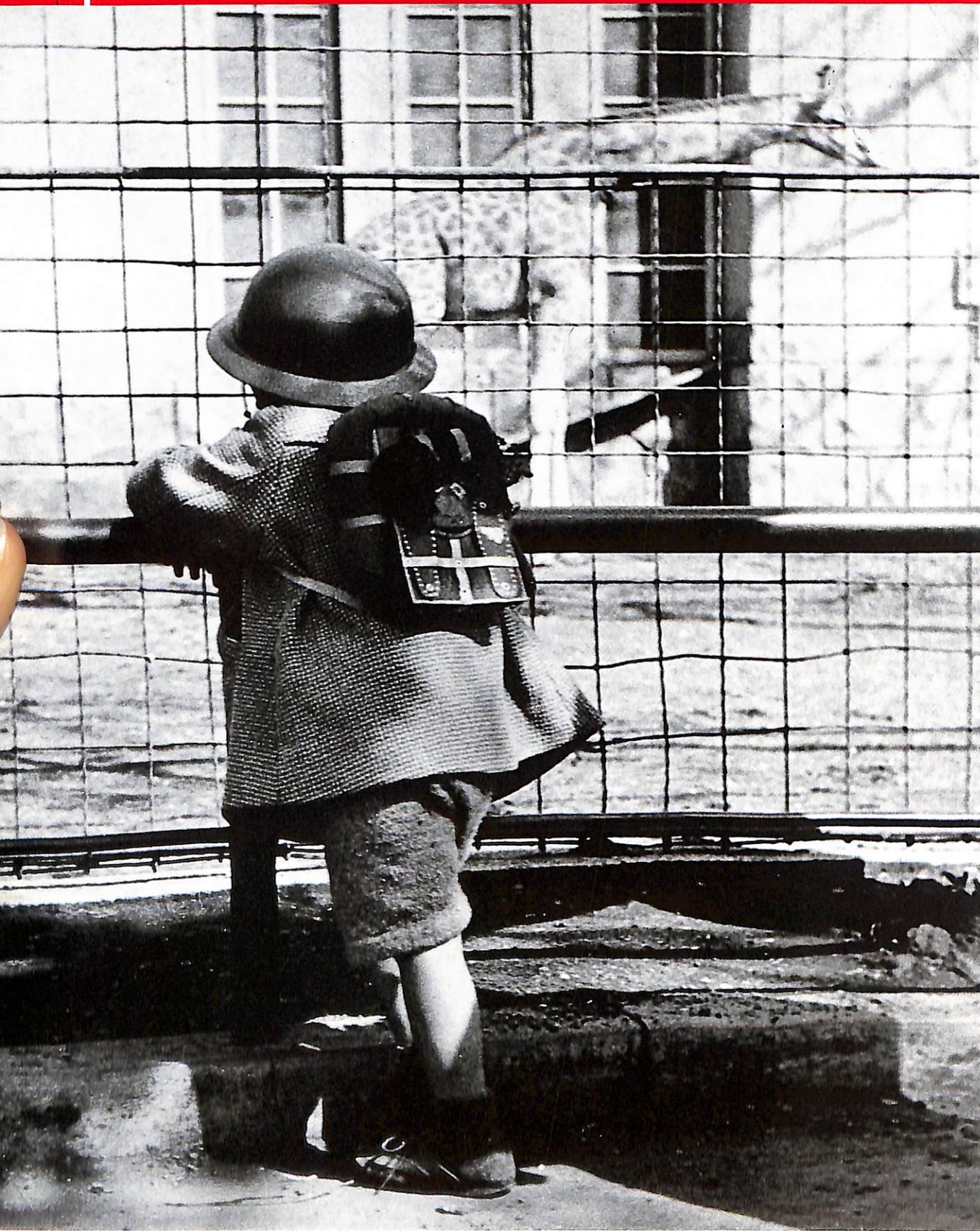
登呂遺跡を訪れてみた。発掘現場と同じところに竪穴式住居や高床式倉庫が復元してある。これらは昭和三六年から展示してあり、かつては修学旅行の児童・生徒が順番待ちをして記念撮影する光景が見られたという。が、私が入園した時は閑散としていて、見学者はまばらだった。遺跡の一画に建つ市立登呂博物館で、山口料平次長に話をきく。

「昭和四七年、開館した時は年間一八万人の来館者がありましたが、現在は一七万人前後。登呂の写真は日本史の教科書にかならず掲載されたものですが、近年、青森県の三内丸山遺跡や佐賀県の吉野ヶ里遺跡にとって代わられている。残念でなりません」

小長谷氏も悔しそうに言う。

「市がもっと広範囲に用地買収していれば、今もなお調査が継続され、弥生人の墓地など新発見があったかもしれない」

遺跡周辺は住宅が密集、水田跡地のすぐ南には東名高速道路の高架があり、自動車の騒音が絶え間なく鳴り響いていた。

動物たちの受難時代！
ホクマンヒグマは毒殺、ゾウの「花子」は餓死
上野動物園から27頭の猛獣が消えた日

▲鉄かぶとをかぶり、背嚢を背負って残り少なくなった動物を見つめる児童。キリンは「処分」をまぬがれた。

昭和一八年の八月から九月にかけ、「空襲での万が一に備えて」という大義名分のもとに、上野動物園の猛獣たちが次々と「処分」されていった。解剖された後の骨肉は園内にある慰霊碑の前に埋葬されたが、戦争遂行、戦意昂揚のためとはいえ、あまりにも無残な出来事であった。

非業の死をとげた二七頭の動物たち

「自分が担当する動物の殺害現場に立ちあうなんていう人はいませんでしたし、その日は欠勤する人さえいましたね。一心に愛情を注ぎ続けた動物ですよ、かわいそうで見ていられますか。あの一ヵ月というもの、大の大人が毎日涙を流し、家族にもそのことを話せない鬱憤を、酒でまぎらす日々が続いたんです」

当時を振り返り、そのむなしさを語るのは、今や唯一の生き証人となった竹林（旧姓・加藤）哲五郎氏（七八）だ。

▲わずかな餌を与えられる「トンキー」。動物園側は一部の動物を安全な場所に疎開させようとしたが、東京都長官はこれを厳しく禁じた。

昭和一八年八月一六日、福田三郎園長代理と、召集されて陸軍獣医学校に勤務していた古賀忠道園長は、東京都公園課の井下清課長に呼び出された。そこに待っていたのは、「猛獣を処分せよ」との大達茂雄都長官の命令だった。

最初に犠牲になったのは、ホクマンヒグマである。八月一七日、毒薬・硝酸ストリキニーネ三瓦入りのふかしたさつま芋を食べ、一、二分で四肢に痙攣を起こし、もがき苦しんだすえ、二二分後に息をひきとった。

殺害の方法はもっぱら、周辺住民に知られないように、何日も絶食をさせた後に、毒入りの餌を与えるという方法で行われたが、動物の中にはそのたくらみを見抜いて餌を吐き出すものもいて、あらためて飼育係の涙をさそった。

ニホンツキノワグマなどは三日間の絶食でも体力は衰えず、夕刻寝ているところを首にロープを巻きつけて数人で引っ張り、一五分もかかって窒息死させた。アメリカヤギュウ（バイソン）は頭部を金槌で打たれ、ヘビ類は胴体を切断されるというむごたらしいものだった。

最後まで残ったのはゾウである。当時、上野動物園には三頭が飼育されていたが、性格の荒い「ジョン」は、〝毒殺命令〟が出される三日前から絶食が始められ、八月二九日、瞳孔散大の状態で絶命した。

八月二五日に絶食を開始した「花子」が死亡したのは、九月一一日。芸達者で愛嬌ものの「トンキー」だけはこっそりと餌をもらいながら生き続けたが、ついに九月二三日には餓死してしまった。

こうして一四種二七頭の動物たちが、閉園後や休園日に姿を消していった。その間、動物園は開園されてはいたが、猛獣舎と案内所には「工事中につき猛獣は当分見られません」との掲示が貼り出されたのである。

九月四日午後二時頃から、動物たちの慰霊法要が営まれると、それを知った近所の子どもたちなど五〇〇人もの人々が集った。蟬の声が上野の森に響く中、「殉難猛獣霊位」と記された位牌、そして灯火がゆらぐ祭壇の前には、生前の好物だった、肉や魚、野菜などの供物が並べられ、動物たちとの別れを告げる焼香の煙は長々と絶えなかった。

全国から数多くの手紙も寄せられた。その中には、「戦いのためとは言いながら、本当にかわいそうです。軍人を志望しているぼくです。戦場でこの殉国動物のあだ討ちをしてやりたい」というものもあった。

▲犠牲となった動物を埋葬するために掘られた穴の前で肩を落とす園長代理・福田三郎（左）。後方は慰霊碑。

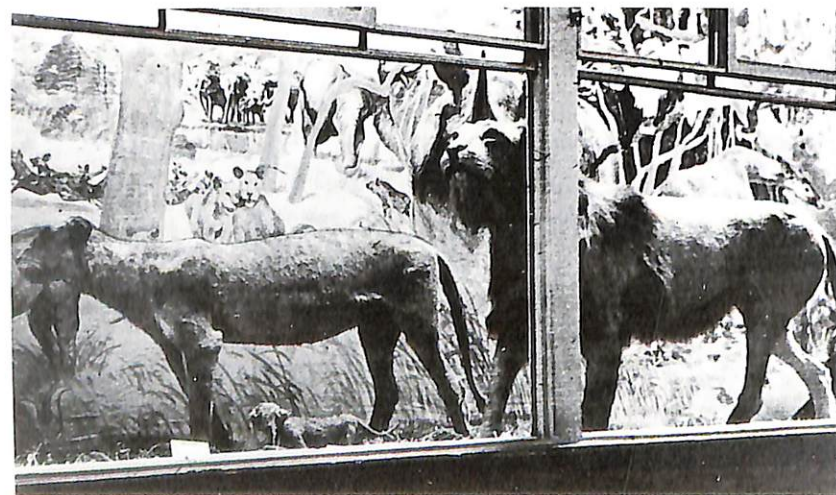
動物を「処分」することで国民の緊張感を高める

上野動物園が陸軍東部軍司令部の要請を受け「動物園非常処置要綱」を作成したのは、一六年八月のことであった。

この要綱では東京にある上野、井の頭、日比谷のそれぞれの動物園にいる八七〇頭の動物たちを危険度に応じて四種類に分類し、状況に応じた対応策が示され、処置については薬物を原則とし、余裕のない時は銃殺することと定めていた。上野動物園では六六五頭の動物のうち四九頭、井の頭公園自然文化園では、一四三頭のうち三頭が最も危険な動物とされ、処分の対象となった。

そして、二年。昭和一八年七月一日、東京に「都制」が敷かれ、初代東京都長官に、前「昭南」（シンガポール）市長の内務官僚・大達茂雄が赴任する。動物処分が実行されたのは、その一ヵ月後のことであった。

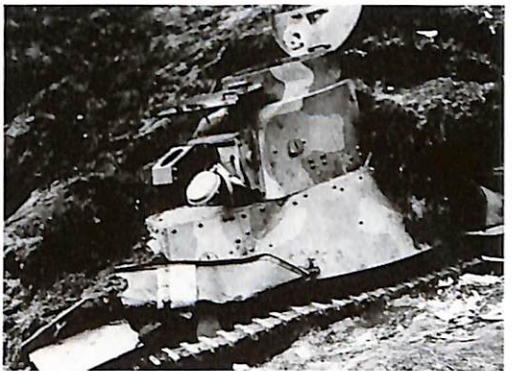
元上野動物園の飼育課長で現在は日本動物園水族館協会顧問の小森厚氏は動物処分の真相について、「大達長官の意向が強くはたらいたのです。彼は実際にシンガポールでの戦況を見て、戦争が逼迫していることを実感し、都内との落差に危機感を持った。東京の本格的な空襲までは間があったのに、処分を断行したのは、都民の緊張感を高めるためだったのです」と語っている。

ほかの動物園でも、昭和一八年九月の井の頭公園自然文化園のホッキョクグマ一頭、ニホンツキノワグマ一頭をはじめ、大阪の天王寺動物園では一九年三月からライオンなど二六頭、京都市動物園では一三頭が「処分」され、名古屋の東山動物園では猟友会の手でヒョウやトラが銃殺されるなど、猛獣類の受難が続く。

しかし「処分」の対象からはずされたカバやラクダなどの動物は戦火の中を生き残り、戦後の動物園に引き継がれていったのである。

▲主を失った猛獣舎には、剝製が展示された。　写真はいずれも東京動物園協会提供

フォト＋日録で再現する365日

毎日新聞社

▶**キスカ島奇跡の撤退（7月29日）**濃霧を利用して米包囲網を突破、50分間で約5200人の守備隊全員を駆逐艦などに収容した。写真は放棄されたトーチカ代わりの戦車。

◀**連合軍、ニュージョージア島に上陸（7月5日）**日本の最前線航空基地、ムンダ飛行場を奪取するためで、約1ヵ月の戦闘の後、目的を達成。ただちに飛行場の大拡張を行い、反攻の強力な足場とした。

毎日新聞社

▶**連合軍、シチリア島に上陸（7月10日）**モントゴメリー指揮の英第8軍とパットン指揮の米第7軍が2方面から上陸、8月17日までに全島を制圧した。9月からはイタリア本土での戦闘が始まる。

◀**西日本に台風、死者・行方不明者240人（7月22日）**4日間にわたって荒れ狂い、特に愛媛県の被害が大きかった。写真は軒下まで浸水した大洲市の様子。この年は9月にも大きな台風が来襲した。

毎日新聞社

キーストン

▼**タイから贈られた仏舎利（7月17日）**「大東亜」の一翼を担うピブン首相からのプレゼントで、東京・芝の増上寺で恭迎式法要が行われた。写真は到着した仏舎利の輿を迎えるところ。

沼野謙／JPS

毎日新聞社

▲**東京都誕生（7月1日）**東京府・市の二重行政を一本化し、35区と3つの郡部など東京府の全域を管轄する。初代長官には前昭南市長・大達茂雄が就任した。写真はこの日から都営になった市営バス。

昭和18年7月

1（木）●東京府に都制施行、東京都になる。
●急行列車の自由乗車廃止され、列車指定制に。

2（金）●出版関係者三万人が大日本出版報国団結成。

3（土）●家庭用ミシンの生産禁止。

4（日）●大分県の陸軍造兵廠で朝鮮人労働者がスト。

5（月）●全列車車両が国家管理となる。
●名古屋市の愛知一中が生徒大会を開き、有資格者全員が予科練に志願することを決定。

6（火）●日光東照宮、杉並木供木の伐採奉告祭挙行。

7（水）●陸軍技師がヤシの実から醤油製造、と新聞に。

8（木）●盲人愛国運動大会、工場への鍼按奉仕を決定。

9（金）●山田耕筰作曲の「アッツ島血戦勇士顕彰国民歌」をレコード吹きこみ。

10（土）●横浜のゴルフ場をそば畑にする作業開始。
●連合軍、伊シチリア島に上陸（ハスキー作戦）。

11（日）●文部省、学内皆訓練のため夏休み廃止を決定。

12（月）●黒海北方のクルスクで、独ソが史上最大の戦車戦。ソ連が東部戦線の主導権握る。

13（火）●全国の大学で学生食堂閉鎖。

14（水）●制服の金ボタンも回収で木製に代替と新聞に。

15（木）●愛媛県沖で客船が衝突。三百数十人行方不明。

16（金）●中等学校の成績評価が優良可に統一と新聞に。

17（土）●農林省、挙国芋類大増産運動の開始を決定。
●豊島区の町会が「独身者退治」のため未婚者登録簿を作成、と新聞に。

18（日）●文部省、寺院・教会の休閑地五〇〇万坪（一六五〇万平方㍍）の農地転用を通達。

19（月）●連合軍、初めてローマを空襲。

20（火）●船大工に最高賃金制導入。計画造船所の賃金をこれより高くし、労働力確保をはかる。

21（水）●国民徴用令改正で軍需会社を会社ぐるみ徴用。

22（木）●西日本に台風。二六日にかけ、愛媛県中心に大洪水が発生、死者二一一人、不明二九人。

23（金）●都内の公園で公共待避壕作り開始。

24（土）●連合軍、独ハンブルク空襲を開始。全市壊滅。

25（日）●イタリアでムッソリーニの権力剥奪、逮捕。

26（月）●中華料理の自粛価格決定。最高額は五円。

27（火）●陶土が四割混入した石鹸を配給へ、と新聞に。

28（水）●東京の多磨墓地で分譲開始。永代使用料は最小の墓地で一二円六〇銭。

29（木）●キスカ島守備隊約五二〇〇人、撤退に成功。
●木下恵介監督第一作「花咲く港」封切。

30（金）●閣議、女子の学徒動員を決定。

31（土）●大政翼賛会本部で全日本草刈り選手権表彰式。

証言・あの日この日
清沢 洌（53）

2月17日（水）〈十六日、ゴルフをやる。二ヶ月ぶりだ。あまり成績よくなし。ゴルフは今度打球というようになった。「打球錬成袋」とゴルフ・バッグをいったらどうかと皆で笑う〉（清沢洌『暗黒日記』）

アメリカ仕込みの自由主義者、清沢洌はゴルフが大好きだ。3月16日、〈昨日、高の台ゴルフ・クラブに遠征を試む。PGA（文筆家のゴルフの会）なり。三等賞をとる。すき焼あり、天気よく、好個の日であった〉。だが時局はそれを許さない。7月6日、〈ゴルフなどは、もう来年はやれないだろうという空気が、PGAの連中の間にも満ちてきた〉。そして10月1日、〈昨日は駒沢ゴルフ場の閉鎖最終日でバッグをとりに行った。やっている間に、No.9のアイアンを拾われ盗まれた。不愉快なること限りなし。近頃は盗人の世の中である〉。（坪内祐三）

毎日新聞社

▲**大日本婦人会、竹槍訓練（8月18日）**「決戦」ムードが横溢する中、敵機の搭乗員が降りてきたらこれで突こうというもの。翌年8月には閣議で「一億国民総武装」が決定され、本格化する。

▶**子どもたちの血液型検査（8月2日）**慶大医学部学生が東京・四谷と両国の国民学校で、負傷時のためにと夏休み返上で奉仕。児童の胸に血液型と連絡先を記入した名札がつけられた。

藤本四八／JPS

▼**虎の子の100機破壊（8月17日）**米機の攻撃を受けたニューギニア島北岸、ウエワク飛行場の日本陸軍機。日本機は奇襲攻撃により地上で撃破されるものが多く、補充は思うにまかせなかった。

毎日新聞社

朝日新聞社

▲**東京で長袖追放運動（8月31日）**前年から衣料切符の献納などを呼びかけてきた大日本婦人会が、「決戦です！ すぐ、お袖をきって下さい！」と記したカードを25万枚用意、街頭で配った。

▶**盛り場で「軍属」募集（8月）**飛行場や基地設営の土木工事は、多くの場合、陸海軍の「軍属」が行った。写真は東京・浅草での海軍軍属募集の様子。宿舎・食事つきで、日給3円以上だった。

毎日新聞社

昭和18年8月

1（日）●朝鮮に徴兵制施行。
●ビルマ、独立を宣言し米英に宣戦布告。
●伊那電気・北海道鉄道など五私鉄を国鉄編入。

2（月）●駆逐艦「天霧」、ソロモン沖で米魚雷艇を撃沈。後の米大統領、ケネディ中尉負傷。

3（火）●駅弁が一三年ぶりに値上げされ四〇銭、日の丸弁当も登場、と新聞に。

4（水）●東京で牛馬の飼料用に街路樹の葉の剪定開始。

5（木）●川崎遊廓一九軒を日本鋼管の工員宿舎に改装。

6（金）●古本の新公定価格告示。値上げにより、死蔵本を市場に出すねらい。

7（土）●都市ガス規制強化で遊興施設用は全面停止。

8（日）●全国国民学校皆泳大会開催。各地会場をラジオで結び一四〇万人が一斉実施。

9（月）●東京でスパイ・謀略ビラの発見・届け出など、初の特別謀略警備演習を実施。

10（火）●商工省、長袖の和服、長帯の生産を禁止。
●大日本婦人会の衣料切符献納運動終わる。総額七〇〇〇万円分の成果。

11（水）●警視庁、焼鳥屋などの不正肉販売を一斉摘発。

12（木）●大本営、中部ソロモン方面からの撤退を決定。

13（金）●邦楽協会、盛り場での新内流し廃止を決定。

14（土）●盆の帰郷客で上野駅が数日来大混雑と新聞に。

15（日）●東京で保母一三〇人が空襲時の幼児救急訓練。

16（月）●関東各都県発行の外食券共通使用を認める。
●東京都、上野動物園に猛獣の処分を指令。

17（火）●独軍、シチリア島から撤退し戦闘終了。

18（水）●文学報国会、前線兵士に感謝する内容の小説を集めた『辻小説集』を刊行。

19（木）●甲子園球場、金属回収で鉄傘の解体工事開始。

20（金）●閣議、科学研究は戦争遂行を唯一目標と決定。

21（土）●「愛国いろはかるた」選定と新聞に。応募二六万句。「い＝伊勢の神風敵国降伏」など。

22（日）●島崎藤村、死去。享年七一。

23（月）●東京で泳げない教員五五〇〇人に水泳講習会。

24（火）●陸海軍両総長、ラバウル持久の方針を内奏。

25（水）●東海道本線に新幹線用の日本坂トンネル貫通。

26（木）●日米居留民交渉の妥結発表。一千余人が帰国。

27（金）●うどん・そば値上げ。かけが一三銭。

28（土）●電力消費制限強化。暖房・パーマ用は全廃。

29（日）●独軍、デンマークを制圧し戒厳令布告。

30（月）●「教学粛正」で文化学院の閉鎖を発表。

31（火）●大日本婦人会、毎月八日を「短袖・もんぺの日」と決める。東京では長袖追放運動開始。

▶**アッツ島守備隊、無言の帰還（9月28日）**「アッツ玉砕勇士合同慰霊祭」前夜祭が、札幌市中島公園で行われた。遺族約5000人が参加。2527柱の「遺骨」は、市内6中等学校生徒の胸に抱かれて祭場へ向かった。

共同通信社

◀**戦局重大なるも日本軍優勢なり（9月）**9月8日に同盟国イタリアが無条件降伏し、ドイツも苦戦していたこの時期、日本軍の奮戦が強調して伝えられた。写真は国民学校生徒の「少国民」に時局解説する教師。

毎日新聞社

◀**石炭増産めざし皆勤競争（9月10日）**熟練労働者不足などで生産が落ちこむ中、福岡県の貝島大之浦炭鉱では、出勤率が低下する夏場の2ヵ月間に皆勤競争を行った。写真は優勝した島根県石見官内の勤労報国隊。

籔敏也所蔵

▼**鳥取で大地震（9月10日）**午後5時37分にマグニチュード7.2の地震が発生した。市内56ヵ所から出火、死者1083人、家屋1万3643戸が全半壊した。発生した断層の横ずれは最大1.5メートルに達した。

毎日新聞社

▼**文化学院、閉鎖式（9月4日）**校主・西村伊作の自由主義的教育は国是に合わないとして、東京都から閉鎖が命じられた。写真は閉鎖式での記念撮影。

文化学院提供

▶**武運長久祈願（9月24日）**徳島県半田町長谷坊常会婦人部で、夫や子の武運を祈って、町内の日光神社に参拝した。写真下は奉納された麻の代用品マオラン。

徳島新聞社

昭和18年9月

1（水）●厚生省、一五〜二一歳の未婚女性対象に体力章検定実施。一キロ走・縄跳びなど五種目。
2（木）●日本出版会、書籍の審査制を強化し、「悪書」や不急の出版物を認めない方針、と新聞に。
3（金）●警視庁、空襲に備え破壊消防隊を編成。
4（土）●連合軍、ニューギニアのラエ・サラモアに上陸。マッカーサー、本格反攻を開始。
5（日）●徳川夢声の語りで「宮本武蔵」放送開始。
6（月）●逓信省、空襲時の時間外貯金払い戻し制実施。
7（火）●米供出確保のため「部落責任供出制度」実施。
8（水）●イタリア、連合軍に無条件降伏。
9（木）●政府、イタリア艦船の抑留と権益接収を実施。
10（金）●鳥取地震。一〇八三人死亡、七四八五戸全壊。
11（土）●内務省、警戒警報発令と同時に映画・劇場・寄席などの興行を中止するよう通達。
12（日）●大政翼賛会、増産推進芸能隊（玉川勝太郎・一龍斎貞丈ら）を組織し公演開始。
13（月）●蒋介石、中国国民政府の主席に就任。
14（火）●第二次日米交換船、インドのゴアに向け出港（11月14日、邦人一二九九人を乗せ帰国）。
15（水）●初の中等学校国定教科書ができる。
16（木）●大日本婦人会、傷痍軍人との結婚奨励など軍人援護運動を全支部に指令。
17（金）●真宗本願寺派、龍谷・大谷両大学合同を決定。
18（土）●警視庁、空襲に備え蛇商にマムシ処分を示達。
19（日）●ニミッツ指揮の米軍、ギルバート諸島に来襲。
20（月）●西日本に台風。島根県中心に死者・行方不明者九七〇人、全半壊二万一〇〇〇戸。
21（火）●陸軍省、昭和五年以前に徴兵検査を受けた第二国民兵の召集を決定。
●店員・車掌など一七職種への四〇歳以下男子の就業禁止。二五歳未満女子を勤労挺身隊に。
22（水）●政府、文系学生の徴兵猶予廃止と理系学生などの入営延期制を発表。
23（木）●閣議、二〇年度から台湾に徴兵制施行と決定。
24（金）●文部省、学徒体育大会を全面禁止。
25（土）●マニラで第一次フィリピン国民会議開催。独立準備委員長ラウレルを大統領予定者に選出。
26（日）●名古屋市でバケツリレー消火競技会開催。
27（月）●帝国農会など五団体統合し、中央農業会設立。
28（火）●閣議、官庁を地方に疎開させる方針を決定。
29（水）●東京刑事地裁、ゾルゲと尾崎秀実に死刑判決。
30（木）●御前会議、「今後採ルヘキ戦争指導ノ大綱」決定。「絶対国防圏」を設定。

毎日新聞社

▼**空襲に備えて銃後の守り（10月7日）**防空警報の試験が全国一斉に行われるなど、日本本土の空襲が懸念される中で、竹槍訓練はもちろんのこと、老人たちまでも弓矢作りに精を出した。

小柳次一／JPS

▲**靖国神社で臨時大祭招魂式（10月14日）**東条首相、嶋田海相、土肥原大祭委員長らが、各地の戦闘で戦死した1万9992人に玉串を捧げ、陸海軍部隊が参拝した。写真は遺族席で式典を見守る人々。

毎日新聞社

▲**予科練大募集（10月）**海軍は前年、応募拡大のため、制服を従来の水兵服から7つボタンの短ジャケットに変更。この年は、3万1000人が入隊（写真）したが、十分な訓練を受けることなく特攻隊員として飛び立ったものも多かった。

▼**議員にも徴兵の波（10月25日）**兵役範囲が拡大する中、第83臨時議会が開かれた。衆議院では議員3人が応召し、その議席には小さな日の丸が印された氏名標が置かれた。写真は応召議員の氏名標を書く議会職員。

▲**フィリピン共和国独立（10月14日）**日本の「大東亜政略指導大綱」に基づく独立で、ただちに同盟条約が調印されたが、ラウレル大統領（右から二人目）は就任演説で、反日の姿勢をのぞかせた。

毎日新聞社

毎日新聞社

昭和18年10月

1（金）●国鉄、「富士」をのぞき特急を全廃。
●阪急・京阪が合併し京阪神急行電鉄発足。
2（土）●日本軍、ソロモン諸島コロンバンガラ島撤退。
3（日）●料理飲食業を一六業種から五業種に統合。
4（月）●船客の持ちこみ手荷物を一人二個に制限。
5（火）●関釜連絡船「崑崙丸」、撃沈。五四四人死亡。
6（水）●東京都荏原区内の商店街が丸ごと満州移住。
7（木）●東京の洗足高女で軍需品生産、「学校工場」の先駆と新聞に。
8（金）●満州北安省で孔子など銅像二〇〇体の献納式。
9（土）●チトー率いるパルチザン、トリエステで蜂起。
10（日）●食糧管理法改正、米麦の闇買いに罰則規定。
11（月）●東京の不忍池を防空貯水池に改造する起工式。
12（火）●閣議、年間三分の一の勤労動員など、教育に関する戦時非常措置方策を決定。
13（水）●大日本婦人会、各班に結婚斡旋委員を設置。
14（木）●フィリピン共和国、独立を宣言。
15（金）●女子勤労挺身隊の編成方法など具体策通達。
16（土）●早慶両大学野球部が出陣学徒壮行試合、一〇対一で早大が勝つ。戦前最後の早慶戦。
17（日）●泰緬鉄道（17年7月建設開始）が完成。
18（月）●大日本育英会設立。
●欠員補充のため、警視庁が一六〜一八歳の「少年警察官」募集、と新聞に。
19（火）●スターリン、米国務長官に対日参戦を言明。
20（水）●東京都麹町区に初の女子勤労挺身隊結成。
●神奈川県、援農に中学生四万四〇〇〇人動員。
21（木）●東京の神宮外苑競技場で出陣学徒壮行会挙行。
●練り歯磨きを禁止、袋入りの粉歯磨きに限定。
●ボースのインド独立連盟、シンガポールで自由インド仮政府樹立（24日、米英に宣戦布告）。
22（金）●千葉県、野菜の県外持ち出しを全面禁止。
23（土）●中央食糧協力会、「食糧事情重大化」に対し、代替素材活用のため郷土食の研究に着手。
24（日）●慶大が理工系学部新設のため藤原工業大を合併、と新聞に。
25（月）●衆議院、効率化のため質問取り止めを決定。
26（火）●常磐線土浦駅で列車衝突。一一〇人死亡。
27（水）●連合軍、ラバウルの孤立ねらいモノ島に上陸。
●中野正剛、倒閣容疑の勾留解除後、割腹自殺。
28（木）●阪東妻三郎主演「無法松の一生」封切。
29（金）●東京で在日ヒトラー・ユーゲントの運動会。
30（土）●滝沢修・青山杉作ら、劇団芸文座を結成。
31（日）●後楽園球場の鉄製椅子一万八〇〇〇脚供出。

▲大東亜会議(11月5日)東条首相、国民政府の汪兆銘行政院長、ビルマ(現・ミャンマー)のバモオ首相ら7ヵ国の首脳が参加。守勢に立たされていた日本が、大東亜共栄圏内の結束を固めようとして開催した。

毎日新聞社

▼防空演習も競技に(11月)第14回明治神宮錬成大会が3日と7日の両日、全国各地の会場で行われた。写真は明治神宮外苑競技場での、「防空・消火」競技。種目は集団体操やバケツリレーなどが中心だった。

毎日新聞社

◀深刻化する布不足(11月)衣料簡素化運動で、長袖の和服や長い帯の生産が禁止され、衣料切符での配給も目の粗いスフばかりとなった。写真は唐草模様のタンスカバーで作ったズボンをはく児童。

影山光洋

▼病院船「ぶえのすあいれす丸」沈没(11月27日)南太平洋で米軍機の攻撃を受け、傷病兵など1422人のうち174人が死亡。このような例は第2次大戦では少なくなかった。

毎日新聞社

▶孤立するラバウル(11月)南東方面最大の航空基地、ラバウルに対し、連合軍は直攻を避け、包囲・孤立させる作戦に出た。写真は米機の攻撃を受ける日本の輸送船。

毎日新聞社

▼タラワ玉砕(11月21日)米軍は、日本の絶対国防圏の前衛線タラワ島へ上陸、激戦のすえ、25日に全島を制圧し、日本兵4700人が戦死した。米側の戦死者も約1000人にのぼり、米軍や米国民に衝撃を与えた。

毎日新聞社

昭和18年11月

1(月)●兵役服務年限を五年延長し四五歳までとする。
●ラジオ放送時間を繰り上げ、午前五時四〇分から午後九時三〇分までに。
●軍需省・運輸通信省・農商省が開庁。
2(火)●中国派遣第一一軍、湖南省の要衝・常徳を攻撃。
3(水)●厚生省、一〇人以上の子どもがいる「優良多子」家庭一〇九七件を表彰。
4(木)●米軍、対日空襲に大型爆撃機B29使用と発表。
5(金)●東京で大東亜会議開催。
6(土)●文部省、「満州国」派遣教員六〇〇人を公募。
7(日)●日比谷公園で一〇万人が大東亜結集国民大会。
8(月)●ガス節約のため天ぷら料理やめようと新聞に。
9(火)●連合国四四ヵ国、ワシントンで会合(難民救済機関UNRRA設立)。
10(水)●純白糖の製造禁止。黒砂糖系の三種のみに。
●千葉・埼玉両県の野菜移動禁止令で買い出し集中の茨城県、持ち出しを二貫目に制限。
11(木)●勤労動員などの資料となる国民登録の未届けが、上中流家庭中心に東京で五万人と新聞に。
12(金)●後楽園球場で戦前最後のプロ野球東西対抗戦。
13(土)●東京都、防火地帯・重要工場・駅前広場の周辺民家を取り壊す重要地帯疎開計画を発表。
14(日)●静岡県熱海署、温泉客の買い出し状況調査。みかん・鮮魚が多く、制限無視が続出。
15(月)●警視庁、学校報国隊の消防・救護活動を規定。
16(火)●東京都が傷痍軍人の義肢の巡回修理班派遣へ。
17(水)●東条首相、軍需産業強化のため五島慶太・鮎川義介・鈴木貞一を内閣顧問に指名。
18(木)●英軍、ベルリンを夜間大空襲(~12月3日)。
19(金)●大東亜新聞協議会が発足(日本新聞協会解消)。
20(土)●東京の豊多摩刑務所、航空機部品生産を開始。
21(日)●米軍、マキン・タラワ両島に上陸。
22(月)●カイロ会談。米・英・中首脳が対日方策を検討(27日、カイロ宣言に署名)。
23(火)●松坂屋で陸軍軍刀展。国宝級の刀剣など展示。
24(水)●マキン島の日本軍守備隊全滅(25日、タラワ島守備隊全滅。両島で五四〇〇人戦死)。
25(木)●東京に「大陸花嫁」養成の拓務訓練所開設。
26(金)●富山県魚津町で大火、二五一戸全焼。
27(土)●病院船「ぶえのすあいれす丸」、南太平洋で米軍機の爆撃を受け沈没。一七四人死亡。
28(日)●テヘラン会談。米・英・ソがソ連対日参戦協議。
29(月)●西園寺公一に国防保安法違反などで有罪判決。
30(火)●正月用餅の配給量決定、前年同様一人一キロ。

◀働く女子生徒(12月)東京の藤倉航空工業落下傘工場で働く高等女学校生徒。政府は6月に男子学生・生徒、9月に14歳以上の未婚女性を、勤労挺身隊などの名称で強制的に就労させる政策を展開した。

梅本忠男

▲子どもたちの勤労奉仕(12月)生産力増強と労働力不足を補うため、現在の小学校にあたる国民学校の生徒たちまでが、「奉仕」の名のもとに農作業や軍需工場の単純作業に使われた。

毎日新聞社

▶最大の牽引力、「D52」完成(12月28日)従来の主力貨物用機関車D51型より、20パーセントも牽引力が大きかった。資材不足のために設計・部品も簡素化され、285両が製造された。

高田隆雄

◀連合軍、ニューブリテン島西岸に上陸(12月26日)グロセスター岬に上陸してツルブ飛行場を制圧。東岸にある日本の重要拠点ラバウルの孤立化に成功し、ニューギニア攻略への橋頭堡を築いた。

◀ラバウル「籠城」(12月)戦線は次第に西進し、ラバウルはその後方に取り残される形になった。物資補給も困難となり、11万の大軍が自活態勢に入った。写真は海水をブリキ板に流して塩を作る兵士。翌年には航空兵力が撤退し、ラバウルはこのまま終戦を迎える。

毎日新聞社

毎日新聞社

昭和18年12月

1(水)●学徒兵第一陣が陸軍所属部隊に入営。
●東京の地下鉄各駅で禁煙実施。
2(木)●参謀本部、捕虜による対米宣伝番組「日の丸アワー」の放送開始。
3(金)●サーカス二八団で処分された猛獣の慰霊祭。
4(土)●正月用酒を一戸に五合ずつ特配、と新聞に。
5(日)●童話作家や紙芝居業者が全国を巡回する「少国民文化挺身隊」を結成。
6(月)●東京の芝公園に訓練用「戦場走路」開設。
7(火)●東京都、児童三万人の「海洋少年団」を結成。
8(水)●運輸通信省、献金つき「報国葉書」を発売。
9(木)●燃料不足で銭湯の廃業届け続出、と新聞に。
10(金)●文部省、学童の縁故疎開促進を発表。
11(土)●全国金融統制会、当座預金の利息廃止を決定。
12(日)●食糧増産・電力増強のため琵琶湖干拓工事および淀川河水統制工事の起工式挙行。
13(月)●次官会議、官庁の年末年始休暇廃止を決定。
●街路樹の槐の実をすりつぶして水を加えると石鹸の代用に、と新聞に。
14(火)●熊本県で買い出しの二〇〇〇人を一斉検挙。
15(水)●十円・五円・一円の新紙幣発行。「YEN」削除。
16(木)●日本出版会、全国三六〇〇の出版社を一九五社に統合と決定。
17(金)●政府、次年度から競馬停止と決定。
18(土)●兎の屠畜制限を撤廃。肉は自家食用とし、毛皮は軍需用に供出。
19(日)●東京で初の行軍検定。男子八キロ、女子四キロの荷物を背負い二〇〇〇人が二四キロ踏破。
20(月)●体育の授業に手旗・モールス信号訓練導入。
21(火)●閣議、主要一二都市の疎開実施要綱決定。
●労働者年金保険法改正案決定、名称を厚生年金保険法に。強制範囲拡大し、加入者倍増。
22(水)●古典保存のため歌舞伎「勧進帳」を映画撮影。
23(木)●自動車の定員と荷車の積載制限を撤廃。
24(金)●徴兵年齢が一九歳に引き下げられる。
●東鉄、スキーの車内持ちこみを原則禁止。
25(土)●名古屋市で一七五戸が全国初の一斉疎開開始。
26(日)●県庁の車で闇米輸送の群馬県庁職員を逮捕。
27(月)●タバコ、この年二度目の値上げ。平均五割。
28(火)●日本橋郵便局、国民学校児童に郵便配達依頼。
29(水)●農商省、東京駅前の貯水池に鯉の稚魚一万五〇〇〇尾を放流。
30(木)●文部省、各種学校を今年度で廃止と発表。
31(金)●国民所得五〇〇億円中租税一〇〇億と新聞に。

俄楽多市（がらくたいち）

◀池田永一治「近くなったぞ亜米利加が……」が「漫画」7月号に掲載された。

流行語
敗色をとりつくろう新語

「転進」。この年に入ると戦局は急速に悪化、あちこちで全滅や敗走が相次いだ。しかし大本営はいっさい敗戦を認めず、新語を持ち出してとりつくろった。その中でもよく使われたのが「転進」である。この言葉は二月九日、ニューギニアやガダルカナル島の敗戦が「目的を達してほかに転進せしめられたり」と発表されて以来、撤退を表現する常套句となった。

「国策炊き」。米一升（約一・八リットル）に水二升を加え、普通の飯粒より二割くらい膨張させる炊き方。その分、満腹感が増すとして奨励されたが、手間と時間もかかった。

「買い出し」。戦局にあわせて、国内の食糧事情はますます悪化、都会に住む人々はリュックに衣類を詰めて、近郊の農村へ米や芋との物々交換に出かけた。農家でもお金の価値を信用せず、物々交換でないと食べ物を売ってくれなかったのだ。買い出しは敗戦後まで続いた。

「国民相場」。公定価格に対する闇値（またはその平均）のこと。米一升が公定価格では五〇銭に対し闇では三円、砂糖は三・七五キログラム二円二〇銭に対し五〇円と、あまりに開きが大きいところからこんな言い方が生まれた。

教育
“青い眼の人形”にとんだ災難

【青森発】約一六年前、日米親善のふれこみで米国からわが国の各小学校へ一体ずつ寄贈された“青い眼の人形”は、今にして思えばおそろしい仮面のニセ親善使であった。青森県西津軽郡鰺ケ沢国民学校ではこのほど、初等科五年生以上の生徒に人形の渡日経路を説明して人形の処置をどうするかを書かせたところ、大部分は憎い国アメリカからの贈り物である以上たたき壊せと答え、敵がい心が童心にも根を張っていることを示した。同校児童の意見の内訳は次のとおりである。▽破壊せよ八九人、▽焼いてしまえ一三三人、▽送り返せ四四人、▽目のつくところへ置いて毎日いじめる三一人、▽海へ捨てろ三三人、▽白旗を肩にかけて飾っておく五人。

（「毎日新聞」二月一九日）

▲勤労動員などで働く母親のために、5月1日、東京の品川寺に戦時託児所開設。 共同通信社

宴会
食糧不足の中海軍の洋風パーティー

昭和一八年、帝国ホテルで海軍さんの宴会が開かれました。その頃は街のレストランは閉鎖していて物資も不足していましたが、陸軍さんは和食を好まれる方が多いので、料亭でお座敷宴会。海軍の方たちは外国へ行かれる機会が多く、フランス料理をよく召しあがるので、帝国ホテルの宴会場がお好みだったようです。

その時のメインディッシュは、鮭とマッシュルームをパイの皮に包んで軍艦の形に仕上げたもので、芸大の彫刻科の学生のアルバイトで、軍艦や戦車、飛行機の氷の彫刻がのっていました。

さて宴会が始まり、料理長が軍艦の料理にナイフを入れました。そのとたん海軍少将が立ちあがり、どーんとテーブルをたたきながら「帝国海軍の軍艦を切るとは何事だ」と怒ったんですって。一緒にいたボーイ長がとっさに「閣下、これは敵の戦艦『プリンス・オブ・ウェールズ』でございます」と言ったところ、「よし、わかった」といって、急にご機嫌になったとのことでした。

（竹谷年子『帝国ホテルの昭和史』）

CM100年

ポスター「撃ちてし止まむ」（陸軍省）

▶三月一〇日の陸軍記念日の標語。陸軍省は五万枚のポスターを配布。

はやり歌

お使いは自転車に乗って

作詞 上山雅輔　作曲 鈴木静一

一
お使いは　自転車で
気軽にゆきましょう
並木道　そよ風　明るい青空
お使いは自転車に乗って　颯爽と
あの町　この道
チリリリリン　リン

二
そよ風が　頬ぺたを
そっと撫でてゆくよ
お日様もあの空で　笑って見ています
お使いは自転車に乗って　颯爽と
籠を小脇に　ちょいと抱え
チリリリリン　リン

▲東宝映画「ハナ子さん」の主題歌「お使いは自転車に乗って」を歌った轟夕起子。

若鷲の歌

作詞 西条八十　作曲 古関裕而

一
若い血潮の　予科練の
七つボタンは　桜に錨
今日も飛ぶ飛ぶ　霞ガ浦にゃ
でっかい希望の　雲が湧く

二
燃える元気な　予科練の
腕はくろがね　心は火玉
颯っと巣立てば　荒海越えて
行くぞ敵陣　なぐり込み

三
仰ぐ先輩　予科練の
手柄聞くたび　血潮がうずく
ぐんと練れ練れ　攻撃精神
大和魂にゃ　敵は無い

四
生命惜しまぬ　予科練の
意気の翼は　勝利の翼
見事轟沈した敵艦を
母へ写真で　送りたい

◀歌詞もメロディーも人々の心をとらえ、霧島昇、波平暁男が歌って大流行した。予科練とは海軍飛行予科練習生のこと。

三面記事
学徒出陣と恋人たち

昭和一八年一〇月、大学生への出陣命令が下り、一二月一日入隊と決まった。私の婚約者・酒井忠元は京都帝大に在学中だったが、帰京するなり電話をかけてきた。酒井の家は新宿区戸塚にあり、二階建てのモダンな明るい洋館で、二階の一角には私たち若夫婦のための寝室や、私の居間や納戸も用意されている。結婚は翌年三月三日の予定だった。彼は「やっぱりミミのいうとおり海軍にする」といい、私を抱きしめながら「後悔しないね」とささやく。そしてドアに鍵をかけると荒々しく服を脱がせた。私はソファの上でされるままになりながら、モーパッサンの伏せ字だらけの小説の意味を諒解した。

（酒井美意子『ある華族の昭和史』）

▲5月10日、名古屋市の東大曽根町―桜山町間でトロリーバスの運転が始まった。 朝日新聞社

相撲
山本長官の死で大熱戦にも軍の怒り

五月二一日、大相撲夏場所の一〇日目、東前頭一〇枚目の青葉山と西前頭一七枚目の龍王山が対戦した。これが大熱戦で、両者ともがっぷり四つに組んだまま一進一退を繰り返して水入り。二番後取り直しとなったが、これまた熱戦のすえ水入り、ついに引き分けとなった。ところがこれが軍の怒りをかった。というのはこの日、連合艦隊司令長官・山本五十六の死が発表され、国技館では取り組みが中断されて、役員や力士が整列、観客も起立して黙祷をささげた。その直後の対戦だったから「軍神が逝かれた日、残った国民はより一層の敢闘精神でことにあたるべき時に引き分けとは何事か」というわけである。

このため両力士は無期限出場停止となったが協会会長（竹下勇元海軍大将）に詫びを入れて、二日間の出場停止で決着した。

（小島貞二『大相撲こぼれ話』）

◀五月一五日、東京の省線有楽町駅に初の改札嬢が登場し、話題を集めた。 共同通信社

犯罪
出獄したアル・カポネ闇取り引きで大もうけ

シカゴ暗黒街の顔役アル・カポネは脱税行為のために入獄、一時は精神に異常をきたしたと伝えられていたが、最近出獄し、米国の闇取り引きの大立て者として再起した。大都市のあるところ、かならずカポネの手先が軍需工場や実業界に食いこみ、警官に贈賄して大っぴらに闇取り引きを行っているありさまで、二月一五日から一カ月で一味がニューヨークなどで闇取り引きした肉類だけで五〇〇〇トンという膨大な量に達している。

（「朝日新聞」六月一八日）

戦争
名誉の負傷に日本一長い傷病名

和歌山県出身の高橋浅雄さんがキスカ島の戦闘で全身一〇カ所に負傷、軍医によって傷病名がつけられた。これが「右足部挫弾爆弾弾創右顔面爆弾弾片創同耳下腺損傷右側頸部同側胸部……」とあり、これでまだ三分の一。公式記録としては日本一長い傷病名となった。

（「週刊新潮」昭和三八年五月二七日号）

この年の初もの
非常時用放送自動車日本放送協会が空襲に備え

●女性住職　富山市専福寺の今湊富子さん（一九）が有髪の住職に。

●ボールペン　南米に亡命したハンガリー人が発明、翌年アメリカで生産が開始され、爆発的な人気を呼んだ。

●集団見合い　東京結婚相談所が主催し、四〇〇〇人の男女が参加して好評だった。

▶石板。石筆で文字や絵を書き、布きれを丸めて消す。この頃、よく使われた。

葛飾区教育資料館提供

ドイツの最新兵器を求めて……
往復5万4000キロの決死行
潜水艦「伊8号」204日目に帰投！

▲「伊8号」潜水艦。昭和13年完成の大型潜水艦で、無補給で2万5000キロ以上という航続力を持っていた。　潮書房／光人社提供

第二次大戦中、日本は五度にわたりドイツに潜水艦を派遣した。長大な航続力を持つ、日本の潜水艦ならではの挑戦だった。目的は機密を要する両国間の連絡と、最新の軍事技術の入手。日本からも空母用カタパルトの設計図などが送られた。しかし、この〝深海の使者〟としての任務を達成しえたのは一隻だけだった。

最新兵器を満載して「伊8号」潜水艦帰還

「やった、やった。ついにドイツ往復作戦に成功した」

昭和一八年一二月二一日午後、呉海軍工廠の職員らに迎えられて広島・呉軍港に接岸した伊号第8潜水艦（「伊8号」）の乗組員一一〇人から歓声が上がった。インド洋から喜望峰をまわり大西洋を縦断する往復五万四〇〇〇キロにおよぶ航海をなしとげた乗組員の中には、通信長・桑島斉三中尉（二二）の姿もあった。現在七五歳、千葉県旭市に住む桑島さんは、当時を振り返って言う。

「極秘任務ですからセレモニーがあるわけでもない。普段の入港と変わりませんでした。でも長い航海でしたから、とにかく嬉しかった。ドイツ海軍から贈られたお土産のワインも持っていたしね」

「伊8号」が本来目的とした「お土産」はそんなものではない。全長一〇九・三メートル、全幅九・一メートルと潜水艦としては大柄な船体には、魚雷発射管の中にいたるまで多くの物品が詰めこまれていたのである。予備の魚雷や弾薬をおろしてまで持ち帰ったのは、海軍が熱望していた電波探信儀（レーダー）や高速魚雷艇用のエンジン（ダイムラー・ベンツ社製）をはじめ、点火用プラグ、無線機の図面といったドイツの最新兵器・機械類や医薬品だった。

艦長・内野信二大佐（四二）の指揮のもとに「伊8号」がドイツに向けて呉を出港したのは、この年六月一日。ガダルカナル島への輸送・撤退作戦に従事した後、休む間もない出撃だった。めざすはドイツ占領下のフランス・ビスケー湾内にあるブレスト港。ドイツから譲渡される潜水艦「Uボート」を日本に回航する約五〇人の乗組員と便乗者、ドイツへ送る生ゴム、錫、タングステン、モリブデンなどの物資を満載しての航海だった。

「喜望峰沖の暴風海域に入ったら、荒波で甲板上の設備が次々に破損してしまった。命綱はつけて修理に行ったのですが、今にも足をさらわれそうだった。海に投げ出されたら、間違いなく生きて帰れなかった」（桑島さん）

大西洋に張りめぐらされた連合国軍の哨戒網をくぐり抜けた「伊8号」は、八月三一日、ドイツ軍楽隊の吹奏する「君が代」とドイツ女性の花束に迎えられてブレストに入港する。

「伊8号」潜水艦の航跡

8.31 ブレスト着
10.5 ブレスト発
6.1 呉発
12.21 呉着
10.27 イギリス機の攻撃を受ける
喜望峰
6.22 シンガポール発
12.5 シンガポール着
往航
復航

▲ドイツ海軍の潜水艦基地、ブレストに入港する「伊8号」潜水艦。右後方はブンカーと呼ばれる潜水艦の係留施設で、空襲に備え、厚さ7メートルの鉄筋コンクリートの屋根でおおわれていた。　小菅昭一郎提供（下も）

▲「伊8号」潜水艦長、内野大佐（右）と、ブレストの基地司令官。

「艦内では風呂に入るわけにいきませんから、全身あかまみれ。服を脱ぐと乾燥したあかが、ほこりのように舞うのには驚きました」（桑島さん）

日本を出て三ヵ月の長い航海であった。

続々と深海に沈んだドイツ派遣の潜水艦

九月八日のイタリア降伏でヨーロッパ戦線が悪化する中で、一〇月五日、極秘のうちにブレスト港を出港した「伊8号」の帰路も敵中突破行である。内野艦長の艦内日記は記す。

「一〇月二七日　二〇時二八分　左一二〇度ヨリ敵機襲来。急速潜航中深サ三二米デ爆弾二発ガ近距離ニ炸裂。船体動揺ス。ナオ深サ八〇米ニ退避後『電池室浸水』ノ報告アリ」

アフリカ沿岸のアセンション島から飛来した英軍機の攻撃を切り抜けた「伊8号」は、その後もいくたびか敵の哨戒機におびやかされながら、日本を出て二〇

外から見たNIPPON

インドネシアの詩人、アンワルの日本に対する期待と失望

――佐伯 修

オランダ領東インド（蘭印）と言われていたインドネシアが、日本の軍事占領下に入ったのは、昭和一七年三月のことである。軍政府の置かれたジャワ島などでも、支配者オランダを倒した日本軍は、現地の人々から、おおむね好意的に迎えられたという。実際、日本軍も、公用語をオランダ語からインドネシア語に改めたり、オランダ人がバタビアと呼んだジャカルタを、旧名に戻すなど、インドネシア人の民族的なプライドに訴える政策を相次いで実施した。

このような流れの中で、この年一一月、ジャカルタに「文化センター」（啓民文化指導所）が発足し、若い芸術家や文学者の活動拠点となる。インドネシア現代文学の先駆けとなった「四五年グループ」の旗手である、スマトラ島メダン出身の詩人ハイリル・アンワル（一九二二～四九）も、そんな文化状況下にデビューした。

日本軍を、まず〝解放者〟ととらえた人の一人として、アンワルも、当初は「スメラ二六〇三年」などと、日本の「皇紀」をそのまま用いたり、アッツ島守備隊の日本軍人を、「文化センター」での文芸講話の中で、「ぼくの理想の権化」と讃えたりした。「ディポネゴロ」（一九四三年二月）という詩の中の「この建設の時代」とか「素晴らしい火種は燃え上った」とかいう文句も、〝アジア解放戦争〟としての「大東亜戦争」への共感ととれなくはない。

だが、期待とほとんど同時に失望もやってきた。「ディポネゴロ」を書いた翌月、そして、「文化センター」での文芸講話の四ヵ月前に書かれた「定理」（同年三月）という作品には、こんな詩句がある。

「いつも夕方そいつは家の前を通る／灰色の厚い服で。（中略）そいつは栄光ある一つの名を称え／その大業と聖恩を想起しては／つねにその名に従うように鞭打つ。しかしみんなは背を向ける。それほどそいつには力が無いのだ」（舟知恵訳著『ヌサンタラの夜明け』より。行の配置を改めた）

これは、明らかに、虚勢を張る日本の軍人、もしくは軍属に対する批難と揶揄ととれる。彼は、「話」（同年六月）という詩でも、「横柄に威張って」歩く「手厚くくるまれた坊主頭」の男たちを描いている。

つけ加えれば、先の日本を讃える文芸講話の会場へ向かう途中、彼は日本軍憲兵とトラブルを起こし、講話は代読された由。

日本への期待と失望の後、彼はインドネシア独立への希望と恋を歌う。そして、独立実現後まもなく、二七歳で世を去った。

▶実人生は〝無頼派〟そのものだったという。 彌生書房提供

四日目に呉に帰着した。

日本軍の潜水艦ドイツ派遣作戦は一七年から一九年にかけて計五回行われた。しかし日本までたどり着いたのは、第二便の「伊8号」ただ一隻である。もはや空も海も連合国側のものだったのだ。

第一便の「伊30号」は、ドイツに到着したものの復路のシンガポール港外で機雷に触れて沈没（昭和一七年一〇月一三日）。第三便の「伊34号」は、往路マレー半島西海岸のペナン港外で英潜水艦の待ち伏せ攻撃により撃沈され（一八年一一月一三日）、続く「伊29号」も帰路、台湾・フィリピン諸島間のバシー海峡で米潜水艦によって撃沈される（一九年七月二六日）。また「伊8号」でドイツに送られた約五〇人の回航要員の乗るUボートも、日本への途上、一九年五月三〇日、米駆逐艦によって大西洋に沈む。昭和一九年三月に呉を出港しドイツをめざした最後の潜水艦「伊53号」も、目的地であるフランスのロリアン港を目前に一〇九人の乗組員と二トンの金塊とともに大西洋の底に沈んだ（一九年八月二日）。

圧倒的な連合国側の制空権・制海権のもとでは、「伊8号」もまた、終戦まで無事でいられなかった。

ドイツから帰還後、インド洋で通商破壊戦に従事していた「伊8号」は、二〇年三月二一日、南西諸島方面の米機動艦隊の迎撃に向かった。しかし三月三一日、米駆逐艦二隻に挟撃され、四時間以上におよぶ戦闘のすえ、ついに撃沈される。同日午前四時一二分、ドイツから持ち帰った二〇ミリ四連装機銃を最後まで撃ち続けながら……。

▲「伊8号」潜水艦にドイツ製機関銃を装備し、指導のドイツ人将兵と記念撮影。

▲「伊8号」潜水艦が持ち帰ったダイムラー・ベンツ社製のエンジン。 小菅昭一郎提供（左も）

往きて還らぬ

▲1月18日 大原孫三郎（62）
家業を継いで倉敷紡績社長となり、関西財界をリードした。大原社会問題研究所、大原美術館なども設立。

▲2月4日 林銑十郎（66）
陸軍大将。「満州事変」の際、独断で軍隊を満州（中国東北部）に送り、〝越境将軍〟と呼ばれた。昭和12年首相に就任。

▲2月12日 倉田百三（51）
大正期の代表的な劇作家で、『出家とその弟子』は親鸞ブームを呼んだ。ほかに『愛と認識との出発』など。

▲2月17日 平賀譲（64）
東大を出て海軍造船技師となり、戦艦「陸奥」「長門」などを設計し〝軍艦の父〟と言われた。昭和13年東大総長に就任。

▲3月19日 藤島武二（75）
明治～昭和初期の代表的な洋画家。文展・帝展の審査員もつとめた。昭和12年文化勲章受章。代表作「黒扇」など。

▲3月28日 S・ラフマニノフ（69）
ロシア人の作曲家、ピアニスト。1917年革命を避け亡命、アメリカに定住。「ピアノ協奏曲」などピアノ曲で有名。

◀8月24日 シモーヌ・ヴェイユ（34）
フランスの思想家。スペイン内戦に従軍するなど行動派だったが、耐乏生活のため衰弱死。著書に『圧迫と自由』など。 みすず書房提供

▲9月20日 鈴木梅太郎（69）
生化学者。ビタミン学説の権威で、明治43年米ぬかからビタミンB_1の抽出に成功。米を使わない合成酒も発明した。

▲9月26日 木村栄（72）
天文学者。明治32年水沢緯度観測所の初代所長。「Z項」（木村項）の発見などで日本の観測精度を引き上げた。

▲10月16日 柳原愛子（84）
大正天皇の生母。明治5年天皇に仕え、1女2男を出産、嘉仁親王（大正天皇）のみ成人した。二位局と呼ばれた。 共同通信社

▲11月18日 徳田秋声（71）
自然主義の代表的な小説家で、女弟子との関係を綴った小説で知られる。作品に『黴』『爛』『あらくれ』など。

◀8月22日 島崎藤村（71）
明治三〇年、詩集『若菜集』で詩人として出発。その後、自然主義の代表的な作家となった。代表作『破戒』『夜明け前』など。

▲12月22日 B・ポター（77）
イギリスの絵本作家で、〝ピーターラビット〟の生みの親。二十余冊の絵本を描き、後半生は自然保護に尽力した。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第22号 7月8日(火)発売 毎週火曜日発売 講談社 定価560円 本体533円

1944［昭和19年］

●特集
若者六〇〇〇人を犠牲にした「神風」「回天」特攻隊の"成果"／原爆、レーダー、ペニシリン——陸海軍の"縄張り"がはばんだ戦時下の技術開発／四三万人が大移動！「学童疎開」の"悲惨"体験／二〇〇万市民が歓喜したパリ解放の瞬間！
●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する366日…東京・名古屋に初の建物疎開命令（1月26日）／マリアナ沖海戦。日本海軍、惨敗（6月19日）／サイパン島陥落。四万人余の守備隊全滅（7月7日）／東条内閣、総辞職（7月18日）／東京の学童集団疎開第一陣が上野駅を出発（8月4日）／B29一一機、東京を初めて空襲（11月24日）
●人物クローズアップ
"伝説の投手"沢村栄治、東シナ海で戦死
●決定的瞬間
キャパとノルマンディー上陸作戦
●美の出会い
戦没画学生の"最後の一枚"
●女たちの肖像…東山千栄子と「俳優座」結成／勝者・敗者…戦前最後の"MVP"若林忠志／証言・あの日この日…神谷美恵子、柳田國男／20世紀博物館…物流史料館（東京）／「現場」を歩く…昭和新山／外から見たNIPPON…朝鮮人軍夫・金元栄の"沖縄日記"
●ベストセラー…三島由紀夫『花ざかりの森』、太宰治『津軽』／スターと名場面…黒澤明監督「一番美しく」、山本嘉次郎監督「加藤隼戦闘隊」／モノ語り'44…「松根油」「防衛食容器」

ミニ事典

1943年のキーワード

戦時宰相論

一月一日付「朝日新聞」に政治団体・東方会主宰の中野正剛が古今の国家指導者の例を引きながら、「戦時宰相たる第一の資格は絶対に強きことにある」などと記した論説。細心すぎるところから「東条上等兵」のあだなもある東条英機首相が、これに激怒、掲載紙の発売禁止を命じた。東条ににらまれた中野は一〇月、倒閣を策したとの容疑で逮捕され、釈放後の二七日に自決した。

▲中野正剛。東京朝日新聞記者を経て、大正9年衆議院議員に。

「前線へ送る夕」

日本放送協会が前線兵士慰問のため一月七日から放送開始したラジオ番組。毎月九日と二四日の月二回放送、兵士たちの声の便りや彼らのリクエストによる歌・落語・劇などを中継し、聴取率が都市・農村とも約九〇パーセントという人気番組だった。この頃こうした「慰問放送」が多く、「産業戦士慰安の夕」「農村へ送る夕」などが次々に放送された。

戦時行政特例法

軍需生産力を拡充する必要がある時は、法律の規定や行政庁の職権を、勅令によって解除・変更できるとした法律。三月一八日公布施行。同時に戦時行政職権特例が制定され、鉄鋼・石炭・軽金属・船舶・航空機の五大重点産業については総理大臣に権限を集中させ、直接的な行政運営ができるようにした。

三光政策

昭和一五年頃から在中国の日本軍は、共産軍の抗日根拠地に対し「奪いつくし、殺しつくし、焼きつくす」という徹底した壊滅作戦でのぞんだ。「三光政策」とはこの日本軍の行為を中国側が称した言葉である。「北支方面軍」は四月八日、小冊子『国民政府の参戦と北支派遣軍将兵』を将兵に配布、その中で「三光政策」を禁じたが、終戦までやむことがなかった。

横浜事件

中央公論社と改造社社員ら四人が前年九月、社会評論家・細川嘉六と共産党再建準備のための会議を行ったとして、この年五月に逮捕された言論弾圧事件。翌年までに関係者とみなされた四九人が逮捕され、四人が獄死するなど過酷な拷問を受ける中で事件がでっち上げられた。この結果、昭和一九年になって中央公論社と改造社は、内閣情報局から自発的廃業の形で解散命令を受けた。

玉砕

名誉・忠節を守り、玉が砕けるように潔く死ぬこと。中国の史書『北斉書』による。陸軍大佐・山崎保代以下約二五〇〇人が五月二九日、アッツ島で全滅した際の大本営発表で初めて使われた。「生きて虜囚の辱めを受けず」の「戦陣訓」に縛られた守備隊にとって、とるべき道は「玉砕」しかなかった。戦局悪化とともに同様の悲劇が繰り返された。

女子挺身隊

一四歳以上二五歳以下の未婚・無職・不在学の女子を勤労動員するため、居住地ごとにまとめた組織。九月二一日、政府は国内態勢強化方策を決定、この中で男子の就業禁止職種の決定、女子勤労動員の強化と彼女たちの男子職場への代替を打ち出し、この女子勤労挺身隊結成を進めた。当初は自主的組織とされていたが、翌年八月、女子挺身勤労令が公布され、若い女性は根こそぎ動員された。

絶対国防圏

日本が戦争を継続していくにあたって絶対確保しておかなければならない地域。九月三〇日開催の御前会議で決定された「今後採ルヘキ戦争指導ノ大綱」で明らかにされた。千島、小笠原、内南洋中西部（サイパン島・トラック島など）および西部ニューギニア、スンダ、ビルマを含む圏域としたために、約三〇万人の陸海軍部隊がこの範囲からはずれて孤立、守備隊全滅の素地を作った。

軍需会社法

航空機などの軍需生産を増強するため、軍需会社に指定された企業を優遇し、その生産から人事にわたる経営を全面的に政府管理下におくことを決めた法律。一〇月三一日公布、一二月一七日施行。昭和一九年には六八三社、敗戦までに六八八社が指定会社となったが、労働力や資材の決定的不足、陸軍と海軍の対立などにより成果は上がらなかった。

病院船

傷病者を治療し、輸送するために設けられた船。白い船体に赤十字が描かれ、赤十字の旗を掲げて航行。病院船を攻撃することは禁じられていたが、一一月二七日、日本の病院船が南太平洋で米軍機の爆撃を受けて沈没、一七四人が死亡したように、しばしば攻撃対象となった。病院船を隠れみのに兵員や軍需物資を輸送することも多かったからである。

毎日新聞社

◀病院船「朝日丸」。識別を確実にするため、煙突にも赤十字を記入した。

カイロ宣言・テヘラン宣言

カイロでこの年一一月二二日から二七日までルーズベルト、チャーチル、蒋介石の米・英・中三首脳が会談。中国、朝鮮の独立などを決めたカイロ宣言を一二月一日に公表。また、テヘランで一一月二八日から米・英にソ連のスターリンを加えた三首脳会談が行われ、ドイツ降伏後のソ連の対日参戦などが確認され、一二月六日、テヘラン宣言として公表された。

WWP

▶テヘラン会談の三首脳。左からスターリン、ルーズベルト、チャーチル。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1943

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室＋渡邉裕二
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　㈲エービーシープレス　㈱カマル社　㈱コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ　㈲マックス　㈲マライカ
小原伸夫　鍵和田良輔　小松邦宏　佐野長成　張替政展　藤森雅弘
結城順　吉田忠正

●写真協力
内海薫　梅本忠男　大橋俊夫　岡友幸　影山智洋　影山光洋　北出博基　小菅昭一郎　小柳次一　坂田薫　高田隆雄　高田寛　沼野謙　平野美津子　藤本四八　古川清　宮武東洋　宮田彌栄子　門奈次郎　薮敏也　横堀洋一　朝日新聞社　潮書房　河北新報社　キーストン　共同通信社　光人社　国際報道工芸　JPS　デジタルハウス　徳島新聞社　PPS　毎日新聞社　「丸」　みすず書房　彌生書房　ユニフォト・プレス　WWP　黒澤プロ　サッポロビール　大映　東京ドーム　東宝　松竹　アンドウ・アニメーション・ミュージアム　Archie・Miyatake　葛飾区教育資料館　気象庁　埼玉県平和資料館　東京動物園協会　文化学院　水島衣裳道具博物館

定価560円

雑誌 23703-7/15 T1123703070565
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社